2012年度

（平成24年度）

年　　報

公益財団法人　近江兄弟社

ヴォーリズ記念病院
訪問看護ステーション　ヴォーリズ
ホームヘルパーステーション　ヴォーリズ
ヴォーリズ居宅介護支援事業所

公益財団法人近江兄弟社　ヴォーリズ記念病院

基　本　理　念

Ⅰ　キリスト教の「隣人愛」と「奉仕」の業を実践する。
(病む人、障害を持つ人の満足する医療を実践する。)

Ⅱ　「医療は、サービス業である。」
(“患者サービス第一”を原則とし、親切で親身な医療サービスを実践する。)

Ⅲ　「心と体に対し、調和の取れた医療・看護を目指す。」
(病む人を診る。病む人に優しい医療を実践する。)

基　本　方　針

1．ヴォーリズ記念病院「患者憲章」及び「個人情報保護規程」を遵守し、患者さんの権利、意思を尊重し、常に診療を拒まず、迅速に診断・治療を行う病院となる。
2．一般急性期、高齢慢性期から終末期まで幅広く対応できる体制を整え、患者さんが「生を全うする」ことを支える医療・ケアを実践する病院となる。
3．地域住民の疾病予防・健康的生活のため、地域ニーズを反映した保健・医療・介護活動の拠点として開かれた病院となる。
4．地域の保健医療機関及び介護施設との連携を深め、在宅医療、在宅介護を推進し、患者さんの立場に立った医療・介護を提供する病院となる。
5．ホスピス病棟と在宅介護サービス部門との協働により、在宅の看取りを可能にする病院となる。
6．職員を大切にし、お互いが希望と意欲を持って、働き甲斐のある病院となる。

私たちのちかい

1　私たちは、患者さんのために最善をつくします。
2　私たちは、患者さんの誰にも同じようにつかえます。
3　私たちは、患者さんの権利と意思を尊重します。
4　私たちは、患者さんのプライバシーをまもります。
5　私たちは、知識・技術の向上につとめます。

ご　挨　拶

公益財団法人　近江兄弟社　理事長
ヴォーリズ記念病院　　院長　　周防正史

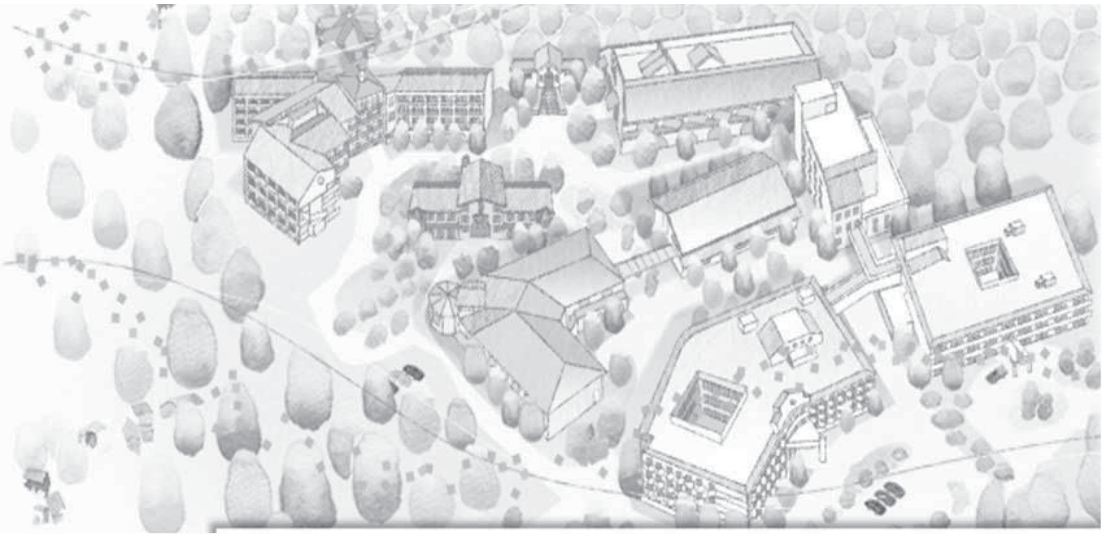
みなさまにおかれましては、益々ご発展のこととお慶び申し上げます。平素は当病院に格別のご支援、ご愛顧を賜り、心より厚く御礼申し上げます。

超高齢化社会が現実のものとなってきました。当院は、地域のお年寄りが、安心して生活していける環境を提供することを考え､患者さんや家族が受診しやすい環境づくり、地域の医療者や介護事業者と連携強化を中長期計画に上げ取り組んできました。平成 26 年 3 月に完成予定のリハビリ病棟には、３階に広いリハビリフロアが、1 階には在宅部門の核となる訪問看護ステーション・ヘルパーステーション、居宅支援事業所を配置します。リハビリと在宅部の強化が完成します。２階は一般病棟と連続して亜急性期病床の拡充および院内ディサービスが実現できるフロアを整備します。在宅療養への支援を強化するだけでなく、入院される認知症をお持ちの患者さんに、より快適な環境を提供できるものと考えています。さらに昨年導入した電子カルテを軸に地域のＩＴネットワークに参加を予定しています。地域の医療者や介護者と一体となった在宅療養支援体制が整いつつあります。

健全経営、医療・看護・介護の質の向上、医療安全、働きがいのある環境などをテーマに中長期計画を立てて参りました。厳しい診療報酬のなか、中小の病院にとってはバランスよく運営していくことは、難しい時代です。その中で適切な投資を行い、地域の方々に支えられて前進を続けていける病院でありたいと思います。

当院は創立者 W.M.ヴォーリズの残した「キリスト教の隣人愛と奉仕の精神」を基本理念とした創立の精神を継承し、地域になくてはならない医療機関として日々がんばっています。2012 年度の活動をまとめましたので報告させていただきます。ご高覧いただければ、まことに幸いです。

末筆になりますが皆様のご健勝ご発展をお祈り申し上げます。



目　　次

病院基本理念・基本方針

私たちのちかい

病院長の挨拶

2012 年度（平成 24 年）主な行事・出来事---------- 1

2012 年度（平成 24 年）組織図、事業報告---------- 3

各部報告

診　療　部 ---------- 7

医　　局 ---------- １０

診療技術部 ---------- １２

診療技術部　研修実績

薬　　局 ---------- １５

放 射 線 科 ---------- １７

臨床検査科 ---------- １８

栄　養　科 ---------- １９

集団栄養指導

ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ科 ---------- ２２

ﾒﾃﾞｨｶﾙﾌｨｯﾄﾈｽｾﾝﾀｰ ---------- ２４

看　護　部 ---------- ２５

看護部院内・院外研修一覧

１　病　棟 ---------- ２９

２　病　棟 ---------- ３１

３　病　棟 ---------- ３３

ホ ス ピ ス ---------- ３５

外　　来 ---------- ３７

事　務　部 ---------- ３８

医　事　課 ---------- ４０

総　務　課 ---------- ４１

庶　務　課 ---------- ４２

礼　拝　堂 ---------- ４４

診療情報管理室 ---------- ４５

地域連携課 ---------- ４６
健　診　室 ---------- ４８
経営企画室 ---------- ４９
在　宅　部
訪問看護ｽﾃｰｼｮﾝ ｳﾞｫｰﾘｽﾞ ---------- ５０
ﾎｰﾑﾍﾙﾊﾟｰｽﾃｰｼｮﾝ ｳﾞｫｰﾘｽﾞ ---------- ５２
ｳﾞｫｰﾘｽﾞ居宅介護支援事業所 ---------- ５４
介護予防拠点事業活動報告 ---------- ５６

委員会報告

業務連絡・業務改善委員会---------- ５７
給与・規約ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄ委員会---------- ５８
自衛消防隊 ---------- ５９
安全衛生委員会 ---------- ６０
栄養管理委員会 ---------- ６１
広報委員会 ---------- ６２
接遇委員会 ---------- ６３
臨床検査適正化委員会 ---------- ６４
医療安全管理委員会 ---------- ６５
医療安全管理　ﾘｽｸﾏﾈｰｼﾞﾒﾝﾄ委員会---------- ---- ６６
教育委員会 ---------- ６７
全人的ケア推進委員会 ---------- ６８
褥瘡対策委員会 ---------- ６９
ボランティア委員会 ---------- ７０
院内感染防止対策委員会 ---------- ７１
診療情報管理委員会 ---------- ７２
病院機能評価委員会 ---------- ７３
個人情報保護対策委員会 ---------- ７４
クリニカルパス委員会 ---------- ７５

2012年度（平成24年度）主な行事　出来事

4月

２日　入社式　　新入社員２７名、　前年途中入社１６名

２日～６日　新入社員オリエンテーション

４日　自己啓発セミナー（新入職者対象）

７日　ヴォーリズ　がんセミナー

「がん患者を支えるということ」～家族の立場から～

１８日・１９日・２４日　病院基本理念研修会　（全職員対象）

２４日　新入社員歓迎会（YES　グリーンホテル）

＊公益財団法人の登記申請を行い、一般財団法人から公益財団法人へ名称変更となる。

5月

７日　　Ｗ．Ｍ．ヴォーリズ　召天祈念礼拝(恒春園)

１０日　「看護の日」イベント

１２日　第８３回近江兄弟社　恒春園記念式（近江兄弟社学園　平和礼拝堂）

１９日　病院　春季追悼会　　（ケアハウス　信愛館）

２５日　第９３回開院記念式・永年勤続表彰

6月

１５日　近江兄弟社　社員会総会　（近江兄弟社　学園　大教室）

２３日　春季　里モニター会

２４日　「いのちがいちばん輝く日」上映会（近江兄弟社学園　平和礼拝堂）

２７日　平成２３年度　各部の振り返り・２４年度事業計画発表会

7月

４日　新入職　自己啓発セミナー後　振り返り（ウォーターハウス））

６日　経営戦略会議（当月より毎月開催する）

１１日　里クリーン作戦（全職員・老健職員による敷地内大清掃）

１８日・２４日　個人情報＆感染に関する研修会　（全職員対象）

8月

１日　個人情報＆感染に関する研修会　（全職員対象）

9月

６日・１２日・２８日・２９日　接遇研修　（病院、老健全職員対象）

２３日　滋賀県病院協会ソフトボール大会

３０日　近江兄弟社　社員会バス旅行

１０月

２０日　病院　秋季　追悼会　（ケアハウス信愛館）

２７日　“生と死を考える会　淡会”秋の集い

「生と死～いのちをみつめて」

八幡小学校　校長　八耳哲也　氏

１１月

１５日　近江兄弟社学園　高校生の施設見学

１７日　秋季　モニター会

１８日　第１８回　ターミナルケア講演会　（近江八幡市文化会館）

「いのちが一番輝く日」の上映会

監督、ホスピス医、緩和ケア認定看護師による鼎談

２３日　管理職者研修会

12月

８日　病院クリスマス祝会

１２日、１８日　　医療安全研修会　　（全職員対象）

１８日　避難訓練、消火訓練　＆　避難に関する講習会

２１日　近江兄弟社グループ　クリスマス祝会（近江兄弟社学園　平和礼拝堂）

２８日　仕事納め　院内巡視

平成２５年１月

２３日　３１日　管理職者研修

２４日　２５日　看護部　看護研究発表会

３１日　院内合同発表会　“基本理念について”（各部署　示説　ポスター発表）

２月

１日　近江兄弟社　創立１０８年「記念の夕べ」　（YES　グリンホテル）

２日　第１０８回　近江兄弟社創立記念式　（八幡教会）

９日　ヴォーリズがん　セミナー

「がんから学ぶ　　Ｐａｒｔ１」

長浜市民病院　医師　伏木　雅人　氏

２４日　“生と死を考える会　淡海“　公開講座（ケアハウス　信愛会）

「生きる～緩和ケア医の想い」

ヴォーリズ記念病院　医師　川上　明　氏

２５日　平成２５年度予算・事業計画説明会

３月

５日　消防訓練　（避難、消火訓練）

９日　ヴォーリズがん　セミナー

「がんから学ぶこと　　Ｐａｒｔ２」

ヴォーリ記念病院　医師　川上　明　氏

２１日　地域連携パス　“三方よし研究会“　担当　ホテルニュオウミで開催

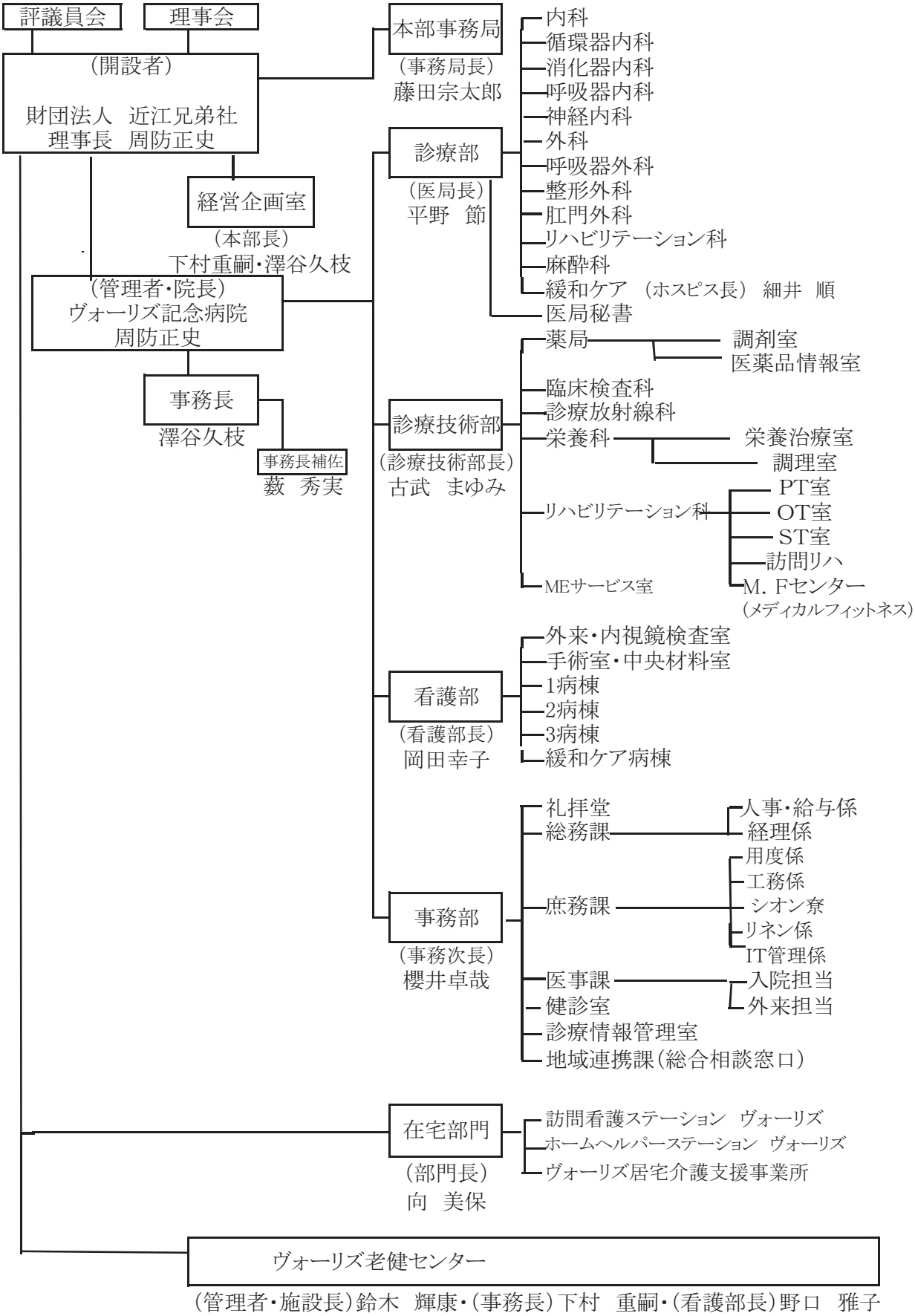
２６日　院外研修報告会

ＯＦＦ－ＪＴ　報告

（医局・診療技術部・看護部・事務部・在宅部
特別報告「認知症ケア研修報告」）

公益財団法人近江兄弟社　**ヴォーリズ記念病院**(及び関連事業体)

2012(平成24)年度　組織図(4月1日)



(管理者・施設長)鈴木　輝康・(事務長)下村　重嗣・(看護部長)野口　雅子

公益財団法人近江兄弟社　　ヴォーリズ記念病院
平成２４年度事業報告

２４年度は、電子カルテ元年の年となった。２４年２月の電子カルテの立ち上げ等の影響を受け、新年度明けて４半期は、入院稼働率が伸び止んでしまう結果となった。

地域連携含め、ベッドコントローラーとの戦略、職員のスキルアップの成果を期待しながら、徐々に回復に向かい、上半期予算達成率９５％から下半期には９９．８％と成果に繋がった。

地域医療再生建築プロジェクトは、主にそれぞれの部署の平面図の決定、前工事として、駐車場の移転拡充、地質検査、測量、電気給排水の移転などが進み、施工業者の選定、解体工事を残すところとなり、次年度の起工式を待つばかりである。

経営状況として、
前年対比では、医業収入は、８０，９４１千円増、医業費用は、５０，８９２千円減となり、医業収支差は、１３１，８３３千円の増、医業外収支差は、９５１千円増となり、経常収支差額１３３，３３２千円増の黒字決算となった。

分析として、下記に述べる。

① 入院は、年間延べ患者数５３，９０３人（前年対比１，４１８人増)、一日平均患者数は亜急性期病床を含んだ一般病棟５０床で４１．９人（稼働率８３．８％)、療養病棟６０床で５７．４人（９５．６％)、回復期リハ４２床で３８．６人(９２％)、緩和ケア病棟１６床で１２人（７５．５％)、患者一人一日平均収入は、１病棟２８，７８２円(予算２８，５００円)、回復期リハ３４，８９１円(予算３０，４５０円)、療養病棟１６，８２７円(予算１７，０００円)、緩和ケア病棟４９，４５０円(予算４５，０００円)と単価・稼働率ともに予算に近い実績となり、予算に対し８，９０６千円増（１％)、前年度対比１０４，７６４千円増（１．１％）と７年ぶりの予算達成Ｖ字回復となった。

地域連携課強化と病棟間の受け入れ体制がよくなり、近江八幡総合医療センターを中心とする患者紹介をスムーズに受け入れることができた。傍ら、退院調整に困難ケースがあり、特に一般病棟の長期化が気がかりなところである。

② 外来は、年間累計患者数３１，０８３人（前年対比４１５人減)、一日平均患者数１０５．７人（前年対比１．４人減)、外来収入は２８７，３９４千円（前年対比２３，０７４千円の減収）となった。原因として、病診連携では、開業医紹介数が前年度対比 35%減となり大きな要因のひとつである。また、常勤医師と専門外来の非常勤医師の集客性のアンバランスは依然として続いている。医師の業務負担軽減を鑑み、電子カルテの操作性については、医師・メディカルクラーク・看護師との業務分担が協議され、検査の受け入れ等に効果が出はじめている。

③ 健診では、５４，１５３千円（前年対比２，９８３千円増収）の実績となった。但

し、職員健診の利便性を鑑み、院内で受診している職員売り上げ４，４４６千円は、福利厚生費として戻している。２次健診の受診を勧め、患者増に繋げることが求められる。（2 次健診 23 年度 2,071 千円・24 年度 3,000 千円　930 千円増）

④ 統括本部による病院、老健センター・在宅部門を巻き込んだ運営を継続している。２４年度から経営企画室を２人体制にし、リクルート、広報並びに財団全体の経営母体を管理運営する体制とした。中でも広報関係では、近江兄弟社グループのホームページの立ち上げに関わり、病院は期末ぎりぎりにリニューアルアップの運びとなった。

⑤ リハビリテーション科の実績は、２５４，７６６千円であった。（目標２億７千万）。２４年３月より充実加算を取得し、更に６月には休日（３６５日）加算取得により、前年度より４０，０００千円の収益増となった。予算達成できなかった原因として、脳血管疾患の患者割合が下半期５５％と減少していることと（２３年平均６５％）、セラピストの退職、病欠による単位数の減少が響いている。

　次年度は、スタッフの増員が見込めるので単位数は安定する見込みである。
回復期リハの役割をしっかり踏まえ、総合リハビリセンター建築に向けたい。

⑥ 労務・経費関係では、人件費が予算対比２９，８７５千円（△２．２％）減、収益に対する人件費率は、６６．５％であった。前年に比べて４．７％減と大きく改善できた。

　また、経費面では、電子カルテによるペーパーレス、車両を含むリース、ＳＰＤの価格交渉の効果が出て、８，６５８千円の削減効果が出ている。
退職金積み立て不足を補填するため、役員２名に定期保険の積み立てを継続しているが、１／２損金処理で、２０，０００千円は積み立てとして充当している。

⑦ 人財の充足においては、医師の高齢化に伴う補充と内分泌科医師の欠員補填が喫緊の課題である。それに加え、２４年度は、２名の医師の体調不良により、他の医師への負担度が増してしまった。その中で、１０月より緩和ケア常勤医師を迎えることができたことに感謝したい。

⑧ ホスピスでは、前項に述べた医師２人体制となり、ホスピス外来を週４回、紹介患者数は近江八幡医療センターを中心に前年度に比べて２倍になるなど、安定した運営が出来ている。２４年度の診療報酬改定アップも追い風となり、稼働率に加え、単価アップが収益に繋がった。

　全体的に、予算達成に対する収入の追求と、支出面では特に、人件費に係わる業務効率と労働分配率のバランスが問われる年度であった。

　25 年度は、地域医療再生計画最終の年度となり、ＩＴネットワークの先駆体として電子カルテ等による医療機関どうしの情報化が進むこととなり、更に地域連携が深化することが予想される。　以上

ヴォーリズ記念病院　損益計算書

自　平成24年4月1日　　至　平成25年3月31日

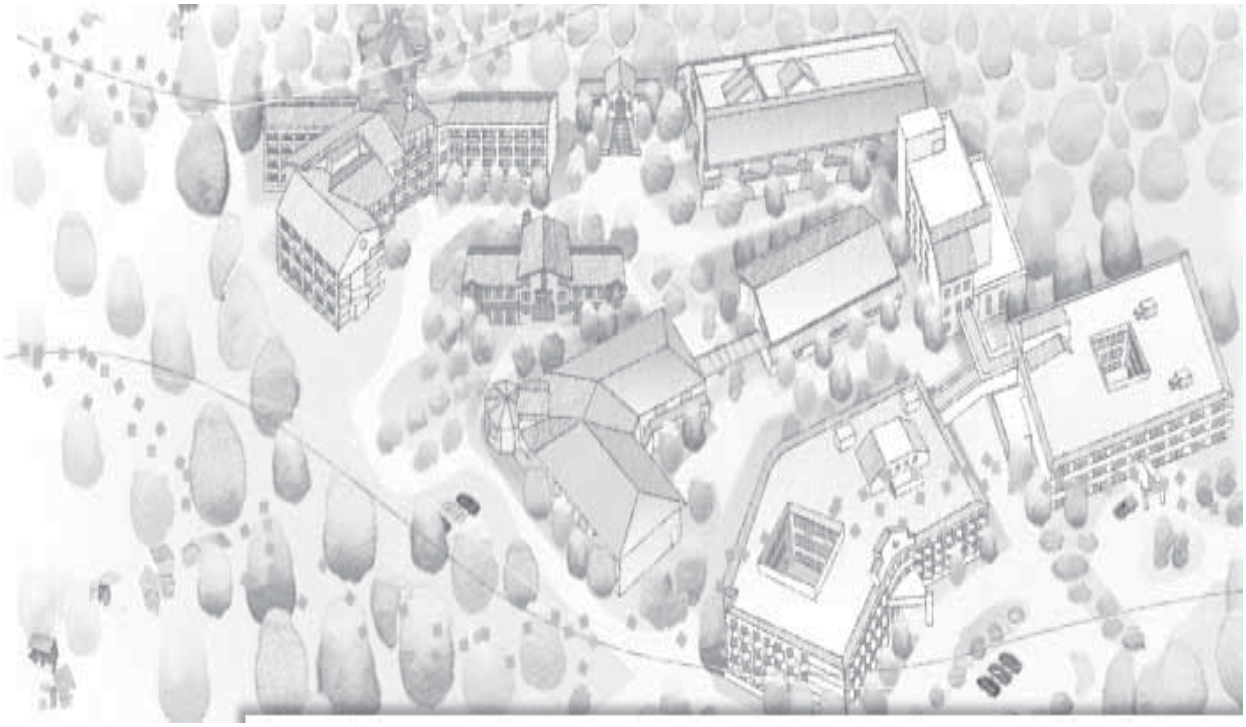
（単位　円）

科目			金額
経常損益の部	医業損益	医業収益	1,898,907,758
		医業費用	1,869,905,803
		医業利益	29,001,955
	医業外損益	医業外収益	91,644,469
		受取利息・配当金	67,540
		その他の医業外収益	79,591,677
		ﾒﾃﾞｨｶﾙﾌｨｯﾄﾈｽ収益	11,985,252
		医業外費用	50,145,271
		支払利息	5,594,835
		寄附金	6,968,000
		その他医業外費用	25,989,254
		ﾒﾃﾞｨｶﾙﾌｨｯﾄﾈｽ費用	11,593,182
		医業外利益	41,499,198
	経常利益		70,501,153
特別損益	特別収益		
	特別費用	[固定資産除却損]	105,845
	特別利益		△ 105,845
税引前当期純利益			70,395,308
法人税等			
当期剰余金			70,395,308
前期繰越剰余金			645,135,172
当期未処分剰余金			715,530,480

剰余金処分案

当期未処分剰余金	715,530,480
当期剰余金処分案	0
次期繰越剰余金	715,530,480

部 署 報告



診療部（医局）

消化器内科

スタッフおよび診療体制
常勤医師１名、非常勤医師２人
外来：火曜日・木曜日・金曜日・土曜日（第１・３・５週目）
入院：約 30 床
診療内容
腹腔内臓器全般の診療、特に内視鏡的処置として、胃・大腸腫瘍に対する内視鏡的切除術、消化管出血に対する内視鏡的止血術を行っております。消化性潰瘍のヘリコバクター・ピロリ菌の除菌療法、炎症性腸疾患の治療、各種消化管疾患の治療を幅広く行っております。そして、慢性肝炎のインターフェロン療法、あるいは膵胆道腫瘍に対する減黄術、ステント挿入術などの診療に当たっております。また、吐血・下血などの緊急対応も可能な限り行っています。

循環器内科

スタッフおよび診療体制
常勤医師１名、非常勤医師２名
外来：月曜日・水曜日・木曜日・金曜日・土曜日
入院：約 30 床
診療内容
急性期から慢性期の患者さんに対応しております。心臓超音波検査・頚部動脈超音波検査（年間約 1000 例）やトレッドミル検査（年間約 100 例）他生理検査を行い、各種心疾患の早期診断、治療を行っております。

糖尿病内科

スタッフおよび診療体制
常勤医師１名、非常勤医師３名
外来：火曜日・水曜日・木曜日（午前・午後）・金曜日・土曜日
入院：約 10 床
診療内容
糖尿病の治療、教育入院、外来における糖尿病教室行っております。NST とも協力して、栄養評価、指導をよりきめ細かいものにして行きます。

呼吸器科

スタッフおよび診療体制
常勤医師１名、非常勤医師４名
外来：月曜日・火曜日・水曜日・木曜日・金曜日
入院：約 10 床
診療内容
一般市中肺炎から COPD 等の慢性肺疾患、結核や非定型抗酸菌症の診断や治療（現在結核入院は受け入れておりません）、肺癌の診断、気管支鏡検査、肺癌の治療（主に抗癌剤治療）、気胸手術など幅広く対応しております。アスベスト疾患の 2 次検診についても対応しております。

一般消化器外科・肛門科・麻酔科
スタッフおよび診療体制
常勤医師 2 名
外来：　月曜日・水曜日・木曜日・金曜日・土曜日
入院：約 30 床
診療内容
急性期疾患（急性虫垂炎、腸閉塞、腹膜炎など）から胃癌、大腸癌、胆嚢癌、膵癌などの消化器癌に対応しております。鏡視下手術も平成 5 年から対応しており、幅広い実績があります。肛門科は内痔核、裂肛、痔ろう、直腸脱、直腸粘膜脱などを幅広く対応しております。内痔核に対する四段階注射法（ジオン療法）を行っております。また、保険診療外ですが、巻き爪の矯正治療（VHO 式）も行っています。

整形外科
スタッフおよび診療体制
非常勤医師 7 名
外来：月曜日・木曜日・土曜日の午前診。
入院：約 10 床（外科で対応）
診療内容
主に慢性期の患者さんに対応。診断（オープンタイプのＭＲＩなど）及びリハビリテーションに力をいれております。非常勤医による手術も行っています（外科での入院になります）。

リハビリテーション科
スタッフおよび診療体制
脳血管リハビリ専任医師 1 名、運動器リハビリ専任医師 1 名、
呼吸器リハビリ専任医師 1 名
入院：約４６床
診療内容
脳梗塞・脳出血後遺症、整形疾患、呼吸器疾患、パーキンソン病・多発脳梗塞・認知症の方に、理学療法、作業療法、言語療法を行っております。
亜急性期病床・回復期リハビリ病棟で入院リハビリを行っております。対象は脳血管疾患の急性期を過ぎた患者さん、整形外科や外科の術後などでリハビリが必要な患者さんなどです。地域連携パスにも参加しています。

神経内科
スタッフおよび診療体制
常勤医師２名
外来：火曜日
入院：約 10 床
診療内容
脳梗塞、パーキンソン病、その他各種神経疾患の診断、治療そしてリハビリテーションを行っております。

緩和ケア部門
スタッフおよび診療体制
常勤医師２名
外来：月曜日・火曜日・水曜日・金曜日いずれも午後
入院：約 16 床（ホスピス病棟）

診療内容
ホスピス病棟（希望館）を開設して 7 年になりました。癌終末期の患者さんに緩和ケアを行っております。今後、湖東地域における緩和ケアの中心を担うべく、心の通ったケアを行っております。在宅ケアにも力を入れております。

認知症外来

● スタッフおよび診療体制

常勤医師 1 名（兼任）
外来：水曜日午後
診療内容
アルツハイマー型認知症・脳血管性認知症の治療・リハビリ・相談を行っております

２０１２年度（平成２４年度）報告　　診療部　　医局

１．目標：

1. 電子カルテの導入を成功させ、一層の活用を図る。
2. 外来患者数／単価を増やし、経営安定に貢献する。
3. 紹介患者数を増やし、地域医療に貢献する。

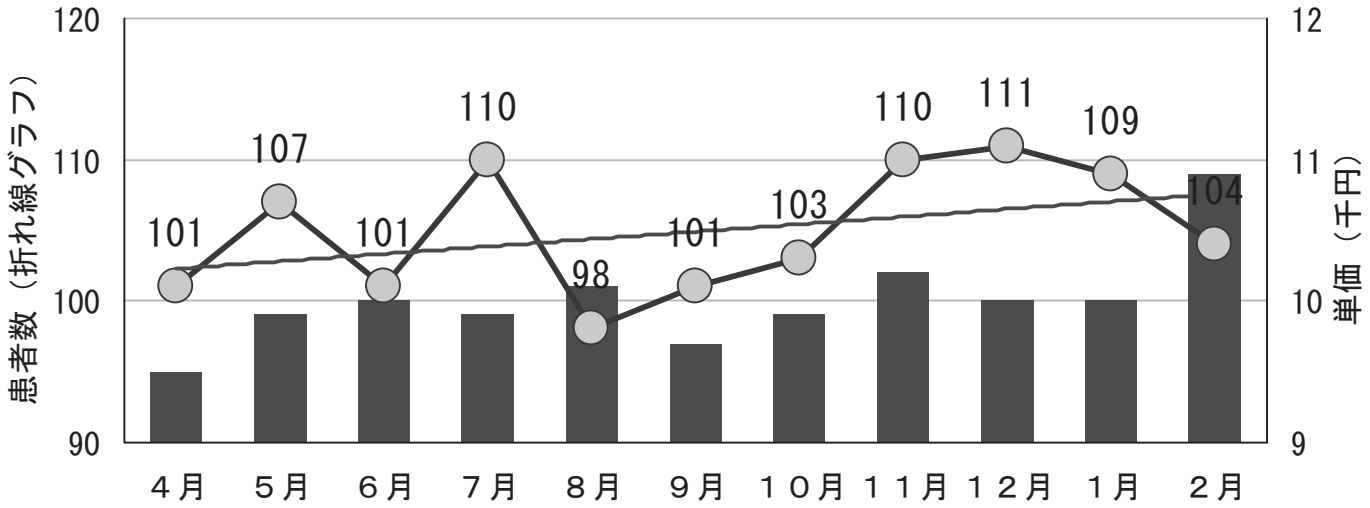
２．今年度のトピックス：

電子カルテの導入当初は外来患者数の減少など影響はありましたが持ち直して来ています。緩和ケア科の常勤医が２名となり、ホスピスの稼働率も上昇しました。ホスピスの映画が公開され、大きな反響がありました。

３．実績：

成果、評価：

平成２４年度１日平均外来受診人数



グラフは下記

紹介患者数はまだ増えていません。

４．教育：

個々の医師により研修や専門医試験に向けた研鑽を重ねています。

５．課題：

１．医師クラークを導入したばかりですが、診療の効率化のために活躍して戴きたいです。
２．電子カルテを一層活用して地域ネットワークへの参加を目指します。
３．対外的な発表の機会を一層増やしたいです。

2012／4～2013／3手術件数報告書

局所麻酔

手術名	
皮膚腫瘍切除	5
乳腺切除	1
皮下腫瘍摘出術	16
肛門ポリープ切除	1
血栓外痔核	1
皮膚切開術	1
慧眼切除	1
痔核根治術	1
ガングリオン切除	1
仙骨部硬膜外麻酔	1
肛門ポリープ切除	1
足趾切断	1
背部粉瘤ドレナージ	1
内痔核硬化療法	11
手根管開放術	6

腰椎麻酔

手術名	
外痔核根治術	1
痔核結紮術	3
虫垂切除	1
内痔核根治術	14
創処置	1
痔瘻根治術	4
直腸粘膜脱形成術	4
肛門ポリープ摘出	2
内痔核硬化療法	1
肛門狭窄形成術	3
裂肛根治術	2
結腸切除術	1

全身麻酔

手術名	
幽門側胃切除	1
ソケイヘルニア靜脈麻酔　硬膜外	5
腹腔鏡下胆嚢摘出術	3
乳房切除術	1
結腸切除	1
噴門側胃切除	1
腹腔鏡下腸管はくり術	1
胆摘総胆管切石術	1
デブリードマン	1
小腸切除	1
虫垂切除	3
直腸切断術	1
胆嚢切除術	1
臍ヘルニア根治術	1

２０１２年度（平成２４年度）報告　　診療技術部

目標：１．各科　目標数字を定め、到達できるよう毎月努力する。

・目標数字を達成する。昨年より収益増を目指す。収益増に結びつくように他部署に働きかける。

・人事評価制度における自己目標の達成をめざし、レベルアップを図る。

・職員の規律遵守を促す。（報告・連絡・時間厳守・整理整頓）

・各科 H24 年度診療報酬改訂、介護報酬改訂に対応する。改訂による加算・診療報酬を取得できるように務める。

2.地域における患者ニーズや役割（機能）を見直し、当院の強みを強化する。

・地域再生建設構想を推進する。

在宅部門、リハビリテーション科、託児所、MFCV が統合される建物をプロジェクトチームにより検討し、具体化させていく。

・当院外来の効率化・省力化

電子カルテが導入され、医師が処方・指示し易いように運用を考えていく。

3.経費を削減する。

薬剤費予算が前年比較 12.1%ダウン（薬価は当院 6%ダウン）・・医薬品費抑制する。

給食材料費予算が前年比較 3.8%ダウン・・・・・・・・・・・・　給食材料費抑制する。

その他の科も経費削減の工夫をする。

4.プライバシー保護、情報漏洩防止を考慮し、電子カルテにより業務をスムーズに運用し他部門と連携し、業務改善を行う。　他部署と連携し、患者さんを中心に考える。

5.医療機器・医薬品の安全使用管理を徹底し、医療事故を防止する。

医薬品・医療機器の講習会、点検を行い、関係素所に発信していく。

6.公益財団法人として、地域との関わり協働を深める

介護予防教室、病院・財団事業に職能を生かし、地域に貢献をする。

今後も、協力し、地域に貢献していく。

２．今年度のトピックス：

放射線科：技師１名が増員となり、CT・MRI を効率良く撮影可能となった。

検査科：ME サービス：睡眠時無呼吸症候群（SAS）の診断に役立つ簡易 PSG 検査を導入した。

栄養科：当院特徴である院内調理により好評である病院食の継続、患者さんの個人対応に努めた特別食比率を高め、栄養指導に力を入れた。

ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ科：H25 年度にオープンするリハビリテーション棟の準備・計画を入念に行った。

回復期リハビリテーション病棟で 365 日リハビリ、充実加算取得を実施し確実に実績をあげることができた。訪問リハビリテーション、外来リハビリテーションにも力をいれた。

ﾒﾃﾞｨｶﾙﾌｨｯﾄﾈｽｾﾝﾀｰでは、一般フィットネス会員及び予防通所介護の利用者が増えた。

薬局：薬剤師による抗がん剤の混注、院外処方による一般名処方を実施した。

３．実績：　成果、評価：診療技術部各科参照

４．教育：

H24 年度　診療技術部研修参加

科名	月日	氏名	出張内容
栄養科	9/12-26 日	村井明子	NST 専門療法士研修のため

	2/21-22 日	坂本陽介	第 28 回日本経腸静脈栄養学会学術集会
検査科	4 月 28 日	鯰江賢二	誰にでもわかる心電図
	5 月 26 日	鯰江賢二	NPPV の理解と知識向上
	7/14-15 日	鯰江賢二	呼吸療法ｾﾐﾅｰイン湘南 2012
	12 月 8-9 日	宮川　由佳	呼吸機能検査の基礎
	2 月 10 日	鯰江賢二	第1回 ME 機器ｾﾐﾅｰ
放射線科	5 月 22 日	日野　雄太	第 147 回磁気共鳴懇話会
	5 月 22 日	矢野　隆弥	第 147 回磁気共鳴懇話会
	6 月 12 日	日野　雄太	第 73 回京都画像研究会
	7 月 21 日	川嶋　勇次	日本検診学会　夏季ｾﾐﾅｰ　2012
	7 月 29 日	矢野　隆弥	消化器がん撮影技師認定試験対策講習
	7 月 13 日	矢野　隆弥	第 11 回滋賀放技消化器画像研究会
	8/25-26 日	峯田　貴恭子	肺がん CT 検診認定技師講習会・試験
	9 月 2 日	矢野　隆弥	NPO 法人消化器がん撮影技師認定
	11 月 16 日	峯田　貴恭子	滋賀県放射線技師会　消化器画像研究会
	11 月 10 日	藤居　勉	第 19 回関西 MRI 研究会
	11 月 16 日	藤居　勉	滋賀県放射線技師会　消化器画像研究会
	12 月 22 日	矢野　隆弥	胃透視の初心者向け講義
	1 月 30 日	日野　雄太	第 75 回京都画像研究会
	2 月 23 日	藤居　勉	第 35 回近畿支部技師部会研修会
	3 月 23 日	矢野　隆弥	胃透視の初心者向け講義
	3 月 16 日	川嶋　勇次	肺がん・胃がん検診従事者講習会
	3 月 5 日	峯田　貴恭子	第 25 回滋賀放技師 CT 研修会
薬局	5 月 20 日	服部加奈	肺がんの標準治療について
	7 月 9 日	新庄安宏	京滋医療安全研究会
	7 月 8 日	新庄安宏	日本医薬品情報学会　総会
	7 月 8 日	古武まゆみ	病院中堅職員育成研修
	9 月 8 日	新庄安宏	第 1 回滋賀吸入療法連携ﾌｫｰﾗﾑ
	8 月 28 日	古武まゆみ	ﾌﾟｯｼｭﾌﾟﾙ換気装置　衛生管理ｾﾐﾅｰ
	9 月 21 日	古武まゆみ	日病薬　医薬品安全管理責任者講習会
	1 月 27 日	服部加奈	日病薬近畿学術大会
	1 月 27 日	村田　唯	日病薬近畿学術大会
	1/26-27 日	新庄安宏	日病薬近畿学術大会発表
リハビリ	4 月 3 日	中川　朋世	在宅療養支援ｼｽﾃﾑ運用開始の研修会
	5/2～6 日	林　華子	AMPS 講習会への参加
	6/24-17 日	村上　順哉	全国作業療法学会での発表
	6/15-16 日	甲斐　始	日本言語聴覚士学会参加
	6/14-16 日	中村　貴洋	日本言語聴覚士学会参加・発表
	9/27-29 日	田中　　潤	高次脳機能と理学療法

	6 月 17 日	久保　大志	ｳｪｲﾄｺﾝﾄﾛｰﾙとｺﾝﾃﾞｨｼｮﾆﾝｸﾞに関する講演
	7 月 3 日	久保　大志	介護ｻｰﾋﾞｽ事業所への集団指導
	7 月 12 日	酒井　英志	在宅医療連携拠点に係る人材育成 WG 開催
	7/14-16 日	内田　美香	日本高次脳機能障害学会
	10/27-28 日	小畑　さおり	全国回復期ﾘﾊﾋﾞﾘ病棟協議会
	9 月 20 日	酒井　英志	在宅医療連携拠点に係る人材育成 WG 開催
	8/24-26 日	西川　美里	認知神経リハビリテーションﾍﾞｰｼｯｸ
	11/25-27 日	吉田　朋代	認知運動療法の知識を得るため
	12/8～9 日	森田　暁	介護予防ｱﾄﾞﾊﾞﾝｽ研修会
	1/19～20 日	清岡　哲也	ﾌｪﾙﾃﾞﾝｸﾗｲｽﾒｿｯﾄﾞ　ﾜｰｸｼｮｯﾌﾟ
	1/20	中塚　絵理	ﾊﾟｰｷﾝｿﾝ病における姿勢制御異常に対するｱﾌﾟﾛｰﾁ
	11/11.18.12/2.9 日	安居　伸吾	SIﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ
	2 月 17 日	田淵由希子	慢性腰痛の機能解剖学的見方・考え方
	3/9-10 日	長澤　悠	機能障害に対する徒手療法
	3/9-10 日	岸本　美地彦	ﾌｪﾙﾃﾞﾝｸﾗｲｽﾒｿｯﾄﾞ　骨盤・股関節
	1 月 22 日	浮気麻貴子	がん患者に対する作業療法について
	2/2-3 日	川村　知世	ﾋｭｰﾏﾝﾑｰﾌﾞﾒﾝﾄ
	3 月 24 日	森　ほのか	ADLの分析とその介入方法

その他　研修に多数参加している。

５．課題：各科参照

２０１２年度（平成２４年度）報告　薬　局

１．目標：薬局の目標数字を定め、到達できるように毎月努力する。

１）目標数字を達成する。（薬剤管理指導数 70%以上・退院指導数 80%以上）

２）日本病院薬剤師会プレアボイド報告、厚労省医薬品副作用報告の実績を上げる。事例を報告し、蓄積する。

３）人事評価制度の自己目標の達成をめざし、レベルアップを図る。

４）職員の規律遵守を促す。（報告・連絡・時間厳守・整理整頓）

２．今年度のトピックス：

１）院外処方箋の一般名処方を開始した。

２）抗がん剤の混注、調整をすべて薬剤師が実施するようにし、病棟での抗がん剤の被爆を避ける機材を導入した。

３．実績：

成果、評価：産休・育休と薬剤師人数が少ない中で実績をあげることができた。

H24 年度	入院人数	指導人数	指導率	380 点（回）	325点（回）	退院 90 点(回)	退院指導
4 月	216	92	79.30%	119	52	31	68.80%
5 月	213	108	80.00%	103	87	23	63.80%
6 月	216	102	69.30%	127	64	34	69.60%
7 月	214	103	68.20%	119	62	32	68.20%
8 月	232	101	61.50%	116	56	32	59.20%
9 月	228	110	69.18%	113	73	45	73.70%
10 月	226	110	48.60%	119	101	28	63.60%
11 月	241	112	67.00%	97	95	32	58.10%
12 月	234	107	45.70%	104	96	27	58.60%
1月	227	98	43.10%	86	78	23	46.90%
2 月	242	99	40.90%	87	82	30	76.30%
3 月	233	101	43.30%	102	103	34	77.20%

４．教育：

研修

肺がんの標準治療について
京滋医療安全研究会
日本医薬品情報学会　総会
病院中堅職員育成研修
第1回滋賀吸入療法連携ﾌｫｰﾗﾑ
ﾌﾟｯｼｭﾌﾟﾙ換気装置　衛生管理ｾﾐﾅｰ
日病薬　医薬品安全管理責任者講習会
日病薬近畿学術大会参加・発表

その他、病院薬剤師会、薬剤師会主催研修会に多数参加。

５．課題：

・H24 年度診療報酬改定による病棟薬剤業務を薬剤師数不足（産休・育休）のため病棟滞在時間が足らず取得できなかったので、加算の取得は次年度に持ち越すが１病棟（一般病棟）で体制を整えていく。

・ 抗がん剤調製を開始したが、無菌製剤加算が取得できる環境、被爆を避ける環境で次年度実施する。

２０１２年度（平成２４年度）報告　放射線科

１．目標：

導入機器を駆使し疾病の早期発見を可能とするとともに、患者を中心とした効率的な運用を構築し、検査・診断時間の短縮化をはかり、より良い患者サービスに務め、患者の検査・診断・治療に対する不安、負担、苦痛の緩和をはかる。

２．今年度のトピックス：

技師数が増えたため、CT 検査数の増加、待ち時間の短縮が図られた。

３．実績：

成果、評価：

一般撮影	平成 24 年 4.115.880	平成 23 年 4.66.6300	前年比　12%ダウン
画像管理加算	平成 24 年 7.457.960	平成 23 年 7.606.680	前年比　2%ダウン
CT	平成 24 年 21.558.600	平成 23 年 19.926.000	前年比　8%アップ
MRI	平成 24 年 9.379.800	平成 23 年 10.896.000	前年比　14%ダウン
放射線科収支報告	平成 24 年 62.793.054	平成 23 年 64.645.574	前年比　3%ダウン

４．教育：

第 147 回磁気共鳴懇話会　第 73 回京都画像研究会　第 11 回滋放技消化器画像研究会
日本 CT 検診学会夏期セミナー　消化器がん撮影講習会　診療放射線技師のためのフッレッシャーズセミナー　第 7 回肺がん検診認定技師講習・認定試験　NPO 法人消化器がん撮影技師認定試験講習
第 20 回関西 MPR 研究会　第 12 回滋放技消化器画像研究会　中村塾　第 75 回京都画像研究会
滋賀 MRI 研究会　滋放技 CT 研究会　肺がん・胃がん検診従事者講習会

５．課題：

遠隔読影が４月より始まったが、依頼を行う際の依頼書と画像とのひも付を、人の手により行う必要があり、依頼間違いに繋がる恐れが非常に高い。
読影レポートを確認をする際、画像とレポートを別々のシステムにて検索する手間がある、システムと装置との接続の問題等、便利になった反面様々な課題が出ており、IT 情報委員会を通して解消していく。

２０１２年度（平成２４年）報告　　臨床検査科

１．目標：

・検査病態意識し検査業務の取り組む事をモットーとし、患者に必要不可欠な臨床検査を目指します。

２．今年度のトピックス：

平成 24 年 5 月より睡眠時無呼吸症候群の（ＳＡＳ）の診断に役立つ簡易ＰＳＧ検査を導入致しました。又、ＤＬｃｏ（肺拡散能力）検査ができる総合肺機能測定装置㈱ﾌｸﾀﾞ電子を使用提案し、採用致して、間質性肺炎とよばれる、びまん性肺疾患の早期発見、肺気腫など肺の病態診断に役立つ検査を致しております。

平成 24 年 5 月から糖尿病の診断又は治療の基準となるヘモグロビンＡ１Ｃ検査を院内にて実施しています。

２．実績：

検体検査加算件数

平成 24 年度	平均	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
検体検査加算件数	729	716	757	724	770	741	574	759	748	714	740	733	771

４．教育：

院内勉強会

① 従業者に対する医療機器の安全使用の為の研修

選別聴力検査について　メーカー㈱リオン　　機種：AA-77A

眼底聴力検査室にて　　平成 25 年 2 月 15 日（金）16 日（土）

研修会・セミナー参加

① チーム医療ＣＥ研究会主催　″心電図セミナー『誰にでも良くわかる心電図』″

日時：平成 24 年 4 月 28 日（土）

② 日総研主催　″日総研セミナー『急性期ＮＰＰＶの理解と患者管理のポイント』″

日時：平成 24 年 5 月 26 日（土）

③ 滋賀医科大学睡眠学講座監修　「睡眠学教育講座」

日時：平成 24 年 7 月 7 日（土）８日（日）、８月４日（土）５日（日）

④ 米国呼吸療法学会公認　日本　「呼吸療法セミナーin 湘南 2012」

日時：平成２４年７月１４日（土）、１５日（日）

⑤ 日本睡眠学会主催　第９回「睡眠医療・技術セミナー」：日時：平成２４年８月２６日（日）

⑥ 日本集中治療教育研究会主催　ＦＣＣＳセミナー関東１ｓｔコース

日時：平成２４年１０月６日（土）７日（日）

⑦ 滋賀県臨床工学技士会主催　ＭＥ機器セミナー　：日時：平成 25 年 2 月 10 日（日）

⑧ 日本赤十字社主催　赤十字救急法等指導員研修会：日時：平成 25 年 3 月 17 日（日）

⑨ 日本集中治療教育研究会主催　ＦＣＣＳセミナー関西コース：

日時：平成 25 年 3 月 23 日（土）、24 日（日）

５．課題：

・簡易 PSG 検査の普及

・心電図結果を電子カルテ取り込みへの検討

２０１２年度（平成２４年度）報告　　栄養科

１．目標

１）クリニカルサービス（栄養管理）とフードサービス（給食管理）の両面から「体と心に対し、調和のとれた食事」の提供を目指す。

２）ＮＳＴの充実を図るとともに、各種地域連携パスに参画し、地域に向けた総合的な栄養ケアに取り組む。

３）ムダを省き、増収に繋がる業務を遂行する。

４）スタッフの自己啓発を支援し、心身の健康管理に留意。

２．今年度のトピックス

1）各病棟担当栄養士が早出の時間を利用し、申し送りに出席する事で栄養サポートの強化を図った。

2）栄養科で味噌汁の配膳（朝）を行う事で、病棟での患者サービス（ケア）向上に繋げられた。

3）経腸栄養剤をバックタイプのものを採用し、衛生面の向上・病棟の業務軽減に繋げられた。

4）特食加算率・栄養指導件数を増やす為、オーダー方法の変更を行い医師の業務負担軽減を行った。

5）ＮＳＴの活動内容を事例検討会で発表し、他職種にも認知してもらえるよう努めた。

6）加算対象ではないが、回復期病棟でのＮＳＴ活動も開始し多職種での栄養管理を行う事ができた。

３．実績

収益（療養費）

	療養費収益及び特食比率				
月	特別食	比率（%）	一般食	比率（%）	合計
4	2,082,844	26.8	5,702,400	73.2	7,785,244
5	1,913,152	25.2	5,667,840	74.8	7,580,992
6	1,879,500	24.5	5,805,440	75.5	7,684,940
7	1,799,308	22.9	6,062,720	77.1	7,862,028
8	2,478,076	29.6	5,886,720	70.4	8,364,796
9	2,685,000	33.2	5,399,040	66.8	8,084,040
10	2,906,244	34.1	5,616,000	65.9	8,522,244
11	2,853,260	35.5	5,187,200	64.5	8,040,460
12	2,930,588	34.1	5,671,040	65.9	8,601,628
1	2,851,828	34.5	5,424,640	65.5	8,276,468
2	2,295,496	29.7	5,445,120	70.3	7,740,616
3	2,866,864	34	8,431,664	66	8431664
合計	29,542,160	30.3	70,299,824	69.7	96,975,120

収益（指導料）

診療報酬	外来（1300）加算	入院（1300）加算	集団（800）	NST（2000）	合計
4 月	6,500	7,800	15,200	0	29,500
5 月	7,800	2,600	13,600	10,000	34,000
6 月	11,700	1,300	12,800	16,000	41,800
7 月	14,300	3,900	14,400	6,000	38,600
8 月	11,700	7,800	12,800	18,000	50,300
9 月	16,900	3,900	15,200	18,000	54,000
10 月	10,400	6,500	16,000	30,000	62,900
11 月	11,700	2,600	10,400	24,000	48,700
12 月	7,800	6,500	14,400	24,000	52,700
1 月	10,400	9,100	16,800	26,000	62,300
2 月	14,300	5,200	13,600	0	33,100
3 月	14,300	10,400	12,800	0	37,500
合計	137,800	67,600	168,000	172,000	545,400

４．教育

（研修・研究）

- ■ 滋賀県栄養士会主催研修会：管理栄養士
- ■ 糖尿病学会：管理栄養士
- ■ 日本静脈経腸栄養学会：管理栄養士
- ■ 日本病態栄養学会：管理栄養士
- ■ 京滋ＮＳＴ研究会：管理栄養士

５．課題

1）調理業務の偏りを改善できなかった。（男女による業務内容の違い）

2）特食率 40％を目標に取り組んだが達成できなかった。

６．評価

1）ＮＳＴでは週 2 回の活動ではあるが、年間 200 件の依頼に対応する事ができた

2）カンファレンスや申し送りに積極的に参加した事で多職種での栄養管理を行う事ができた。

3）年度後半で魚を切り身で仕入れる事で業務の効率化を図った。

6）衛生管理面では、清掃分担表を作成し確実に作業を行う事ができた。

2012 年度　集団栄養指導

糖尿病教室

*時間：第４　木曜日　午後 12 時～午後 1 時半

*場所：研修室（療養棟下）

*内容：治療食の試食と各スタッフによる勉強会

1 月 26 日（木）	医師
2 月 23 日（木）	管理栄養士
3 月 22 日（木）	理学療法士
4 月 26 日（木）	薬剤師
5 月 24 日（木）	看護師
6 月 28 日（木）	管理栄養士
7 月 26 日（木）	医師
8 月 23 日（木）	理学療法士
9 月 27 日（木）	薬剤師
10 月 25 日（木）	看護師
11 月 22 日（木）	管理栄養士
12 月 20 日（木）	医師

２０１２年度（平成２４年度）報告　　リハビリテーション科

１．目標：

①「超高齢化社会」「地域包括ケアシステム」「在宅生活の想定」を keyword として計画実行する

②訪問リハビリテーションサービスの充実を図る

③リハビリテーション科適正人員数を考え、人員増を検討する

④他部署とカンファレンス等の諸会議の内容やシステム見直しを図る

⑤電子カルテ及びリハビリテーション部門システムをサービス向上に活かす

２．今年度のトピックス：

①回復期リハビリテーション病棟（２病棟）のサービス充実

「リハビリテーション充実加算」「休日リハビリテーション提供体制加算」を申請取得し、365 日のリハビリテーションサービスが可能となり、1 日の提供時間も平均 6 単位以上実施することが出来ました（表１）。在宅復帰率は 91.11％でありました（表２）。

②リハビリテーション科スタッフの増員

理学療法士３名、作業療法士２名、言語聴覚士１名の計６名増員しました。セラピスト総数 32 名（内非常勤理学療法士１名、言語聴覚士１名含む）でサービス実施致しました。

③訪問リハビリテーションサービスの充実

理学療法士４名、作業療法士１名、言語聴覚士１名の計６名（常勤換算概ね 4,5 名）で実施しました。訪問リハビリ利用者数も介護保険で 1,063 名、医療保険で 34 名、総訪問回数は 10,574 回（1 回：20 分）であり、昨年度よりも多くの在宅患者サービスが提供できました。課題としては当院の回復期リハビリテーション病棟退院患者に対して継続したリハビリテーションサービスを提供できた数が 9 名と少ないことが挙げられます。

④電子カルテ及びリハビリテーション部門システムをサービス向上に活かす

部門システム導入によりリハビリテーション効率やリスク管理、日々のスケジュール管理、運営管理など多くの課題が解消され、その診療データに基づいた治療計画ができるようになりました。

３．実績：

表１―回復期リハビリテーション病棟実績 *(2012. 04. 01～2013. 03. 31)*

【様式49-5、49-6】	2病棟(休日)	2病棟(休日外)	合計	休日	休日外	総合計
① 回復期リハビリテーション病棟に入院していた患者の延入院日数	2687	11088	13775	2687	11088	13775
② 上記患者に提供された疾患別リハビリテーションの総単位数	7846	76307	84153	7846	76307	84153
ⅰ：心大疾患リハビリテーション総単位数	0	0	0	0	0	0
ⅱ：脳血管疾患等リハビリテーション総単位数	5144	51387	56531	5144	51387	56531
ⅲ：運動器リハビリテーション総単位数	2702	24920	27622	2702	24920	27622
ⅳ：呼吸器リハビリテーション総単位数	0	0	0	0	0	0
1日当りリハビリテーション提供数(②／①)	2.91	6.88	6.10	2.91	6.88	6.10
算出期間における休日・休日以外の日数				72	293	365

表２―回復期リハビリテーション病棟　在宅復帰率 *(2012. 04. 01～2013. 03. 31)*

在宅復帰率 （様式49-2、49-3） ※( )内は再入院患者		
① 退院患者数（名）	135 (11)	135 (11)
(1) 在宅（名）	123 (10)	123 (10)
(2) 介護老人保健施設（名）	9 (1)	9 (1)
(3) 他の回復期リハ病棟（名）	0 (0)	0 (0)
(4) (3)を除く病院、有床診療所（名）	3 (0)	3 (0)
（除外）急性期（名）	3 (0)	3 (0)
（除外）死亡等（名）	1 (0)	1 (0)
② 在宅復帰率 (1)/①（%）	91.11	91.11

４．教育：

①学術発表、講義等

・第 46 回日本作業療法学会　日時：平成 24 年 6 月 25～27 日
・第 13 回日本言語聴覚学会　日時：平成 24 年 6 月 15～16 日
・滋賀県社会福祉協議会主催研修会講義　日時：平成 24 年 7 月 25 日、9 月 22 日
・公益社団法人大津シルバー人材センター講義　日時：平成 24 年 7 月 23 日
・近江八幡市小規模多機能協会主催講義　日時：平成 24 年 11 月 20 日
・公益社団法人滋賀県理学療法士会主催公開講座　日時：平成 25 年 3 月 11 日
・近江八幡市介護予防拠点事業介護予防教室　日時：平成 24 年 9 月 13 日、平成 25 年 2 月 21 日

②研修会・セミナー参加

期　日	氏　名	テーマ
平成 24 年 4 月 5 日	中川　朋世	在宅療養支援ｼｽﾃﾑ運用開始の研修会
平成 24 年 5 月 2～6 日	林　華子	AMPS 講習会への参加
平成 24 年 6 月 15-16 日	甲斐　始	日本言語聴覚士学会参加
平成 24 年 9 月 27～29 日	田中　潤	高次脳機能と理学療法
平成 24 年 6 月 17 日	久保　大志	ｳｪｲﾄｺﾝﾄﾛｰﾙとｺﾝﾃﾞｨｼｮﾆﾝｸﾞに関する講演
平成 24 年 7 月 3 日	久保　大志	介護ｻｰﾋﾞｽ事業所への集団指導
平成 24 年 7 月 12 日	酒井　英志	在宅医療連携拠点に係る人材育成 WG 開催
平成 24 年 7 月 14～16 日	内田　美香	日本高次脳機能障害学会
平成 24 年 10 月 27～28 日	小畑　さおり	全国回復期ﾘﾊﾋﾞﾘ病棟協議会
平成 24 年 9 月 20 日	酒井　英志	在宅医療連携拠点に係る人材育成 WG 開催
平成 24 年 8 月 24～26 日	西川　美里	認知神経リハビリテーションﾍﾞｰｼｯｸ
平成 24 年 11 月 25～27 日	吉田　朋代	認知運動療法の知識を得るため
平成 24 年 12 月 8～9 日	森田　暁	介護予防ｱﾄﾞﾊﾞﾝｽ研修会
平成 24 年 1 月 19～20 日	清岡　哲也	ﾌｪﾙﾃﾞﾝｸﾗｲｽﾒｿｯﾄﾞ　ﾜｰｸｼｮｯﾌﾟ
平成 24 年 1 月 20 日	中塚　絵理	ﾊﾟｰｷﾝｿﾝ病における姿勢制御異常に対するｱﾌﾟﾛｰﾁ
平成 24 年 11 月 11.18 日 12 月 2.9 日	安居　伸吾	ＳＩﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ
平成 25 年 2 月 17 日	田淵由希子	慢性腰痛の機能解剖学的見方・考え方
平成 24 年 3 月 9～10 日	長澤　悠	機能障害に対する徒手療法
平成 24 年 3 月 9～10 日	岸本　美地彦	ﾌｪﾙﾃﾞﾝｸﾗｲｽﾒｿｯﾄﾞ　骨盤・股関節
平成 25 年 1 月 22 日	浮気麻貴子	がん患者に対する作業療法について
平成 25 年 2 月 2～3 日	川村　知世	ﾋｭｰﾏﾝﾑｰﾌﾞﾒﾝﾄ
平成 25 年 3 月 24 日	森　ほのか	ＡＤＬの分析とその介入方法

５．課題：

①回復期リハビリテーション病棟患者と当病棟以外の患者に対するサービス量の違いが大きい。

②当院の回復期リハビリテーション病棟から訪問リハビリテーションサービスへ移行したケースが 9 名と非常に少なく、啓蒙活動が必要である。

③訪問リハビリテーションなど居宅系のサービスに従事した経験者が少なく、人員の定期的なローテーションが必要である。

２０１２年度（平成２４年度）報告　メディカルフィットネスセンター　ヴォーリズ

１．目標：

・介護予防事業の利用者の安定化

・収益の黒字化

２．今年度のトピックス：

・介護予防事業の利用者の増員と利用継続を目指すことで安定的な収益を確保。

・実費にて利用のフィットネス会員に対して運動に関するイベントなどを通して退会の防止。

・介護保険事業の保険所による実地指導の終了。

３．実績：

成果、評価：フィットネス利用者の退会を防止出来たこと、さらには新規利用者を多く呼び込めたことにより収益を安定することができた。前年度よりも約 1,900 千円の増収が出来たことにより黒字収支で２４年度を終えることが出来た。

４．教育：

研修　外部研修参加として

・介護保険法令、運営に関する基準について

・ウェイトコントロールの理論と実際

・コンディションを支える栄養サポート

・チームドクターとしてストレングス＆コンディショニングコーチと共有したい知識

５．課題：利用者数が施設面積や利用人員基準に対してほぼ上限を迎えようとしている中どのよう形で収益を維持または拡大していくかが課題である。また最少人数で営業をしているためスタッフにかかる負担をどのように軽減してくかが課題である。

２０１２年度（平成２４年度）報告　　看護部

看護部理念：私たちは、その人らしさを大切に全人的な看護・介護を提供します

１．目標：

① 看護、介護の役割を(誰のために、何をするのか)を熟知し、患者個々に添ったケアを展開する。

②健全経営を遂行するために、病院経営を安定させる。

③医療安全、危機管理を行い、安全と安心を確保する。

④個々のレベルアップを実現するため教育研修、キャリアアップへの支援を行う。

⑤看護職員の健康に留意する。

⑥病院機能評価受審で得た医療・ケアの質を継続する。

２．今年度のトピックス：

新体制で望んだ１年であった。

・ヴォーリズ記念病院、看護部の紹介 DVD を作成し、看護師・介護福祉士募集や紹介のために役立てた。

・ケアの質維持・向上のための取り組み、看護部教育プログラム作成の検討を継続し行った。

・入院患者対象「認知症ディケア」取り組みの準備を開始した。

・外来部門へ医療クラークが導入され、外来のおける看護部の体制見直しを図った。

・看護外来のフットケア外来を定例化した。

・病棟ミーティング週２回開き病棟コントロールを行った。

・看護部の目指す方向正を明確に示せるよう、看護部理念を変更した。

「私達は、その人らしさを大切に、全人的看護、介護を提供します」

３．実績：

	１病棟	２病棟	３病棟	ホスピス
看護単位	10：1	15：1/30：1	25：1/25：1	7：1
病棟稼働率	84%	92%	94，8%	75，5%
平均在院日数	19，4 日	118 日	269 日	20，6 日
看護必要度	13，8%			
医療区分 2／3			72，8%	

成果、評価：目標評価

①看護部理念の具体化を図り、各病棟の特殊性を強みとし全人的ケアが実践できるように理念変更を行った。新教育ラダーの作成、KOMI ラダーによる教育をスタートし評価修正を行った。

認知症研修へ管理者２名参加、院内「認知症ディケア」開設に向けての準備を始めた。

②ベットコントローラーを中心に毎週２回病床ミーティングを開き空床状況、入退院、待機状況の共有しながら日々運用し各病棟稼働の安定を図った。実績は上記に記載。

③単位のリスクマネージャーを中心にインシデント報告、アクシデント報告を行い敏速なカンファレンスを開き危険予知しながらケアの実践を行った。H24 年度アクシデント 159 件皮膚剥離が 49%を占めた。看護師の針刺しは４件であり５S の再教育を行った。新たに医療安全管理者資格取得講習会１名受講資格取得できた。接遇面での苦情を多く頂き再度病院理念に立ち返るよう周知した。

④看護部各委員会中心に目標管理しながら、各種研修会を開催個々のキャリアアップを支援した。院外研修も情報提供を行い希望・推薦の仕組みの中で参加、学びを伝達講習会で共有しあった。―参加内容は別紙
⑤心の健康管理を支援するため「心の健康アンケート」を行い、産業医の受診のシステムを作った。７名が受診対象者であった。３名が休暇を要する状況であった。その他「腰痛」を訴えるケースが増加した。
⑥H2５年度　病院機能評価新バージョンでの受審に向け研修会へ参加し取り組んだ。

◎人事評価制度に基づく個人目標管理と看護部各単位・委員会活動の目標管理を年３回合同会議にて行いキャリアアップ支援をおこなった。

【2012 年度看護部データー】　○看護部離職率：19.1%　　○平均有給消化率：60%

４．教育

2012 年度看護部教育委員会主催研修会実施一覧表(院内)

参加人数	月　日	テーマ	対 象	担 当	講　師
第１回 40 名	5/9（水）	褥創について	全　員	小西	平野医師
第２回 35 名	6/13	知っておきたいＮＳＴ 栄養管理について	専　門 1、2	小西	1 病棟 中村Ｎｓ
第３回 44 名	7/31 8/7	チームケアについて	専　　門 1、2	中野 東森	ホスピス 谷川Ｎｓ
第４回 20 名	8/30	ケアワーカー伝達講習会	ケアワーカー・看護助手・希望者	中野 東森	
第５回 18 名	11/13	看護師伝達講習会	全　員	湊 桐畑	
第６回 14 名	12/3	ケアワーカー伝達講習会	ケアワーカー・看護助手・希望者	中野 東森	
第７回	12/14	看護研究について 「死の臨床」で発表された看護研究を学ぶ	基　礎 2	湊 桐畑	増田師長
第８回 58 名	2/19 2/21	オムツの当て方について	全　員	浦谷 富原 小西	株式会社グローバー代表 中村真理氏
第９回	3/5	看護師伝達講習会	全　員	浦谷 富原	
第 10 回	3/12	職業倫理について	基　礎 1、2	浦谷 富原	岡田看護部長

2012年度看護部院外教育研修一覧

研修名	人数	研修名	人数	研修名	人数
看護管理者のための養成講座	2	看護職の WLB を進めるポイント	3	災害発生時の看護対応とマニュアル整備と活用	1
看護管理者のための労務管理	2	新人研修「看護職として組織神としての確立」	2	看護管理者のためのストレスマネージメント	1
H24 年度診療報酬改定と看護部の経営的マネジメント	2	創傷ケア	1	緩和ケアディーケアセミナー	2
KOMI ケアセミナー	1	准看護師研修会	1	職場のいじめ、ハラスメント	1
初めての看護研究	5	看護者の倫理的配慮	4	外来看護師長の役割と外来総括管理	1
脳卒中 RH 看護(前編、後編)	2/2	高齢者の理解と認知症になった人の看護	3	看護を教える人のためのリフレクション	2
プリセプターシップ研修	4	フィジカルアセスメント「明日からの自信に繋げる」	1	H24 年度保険医療従事者研修会	1
正しく実戦、標準予防策	1	職場におけるメンタルヘルス対策	1	感染管理スキルアップ研修	1
新人看護職員指導者研修	1	3 年目看護職員研修	1	臨床現場に生かすコーチング	1
新人看護職員研修体制の構築と運営	2	H24年度看護基礎教育と臨床との意見交換会	1	医療安全研修会	1
今日から役立つコミュニケーションスキル	1	看護助手、医療クラークの活用で看護師不足解消	2	看護実戦教育研修会	1
医療から地域への連携	3	病院機能評価受審フォーラム	1	いい加減に生きる	1
看護実践と倫理	2	H24 年度認知症研修会	2	がん看護最前線	1
ナースが取り組む脳卒中 RH	1	感染管理セミナー	2	総リーダーを配置した受け持ち制看護方式	1
NST 専門療法士の臨床実施研修	1	緩和ケアに携わる看護師のためのスピリチュアルケア	2	生活をつなぐ退院支援	1
リスクマネージャー交流会	3	エイズ治療 HIV 感染症研修	1	高齢者の排便コントロールの重要性	1
退院調整関係者講習会	2	その人らしさを支える支援とは	1	滋賀県実習指導者講習会	1
ファースト研修	1	医療安全管理者養成研修	1	日本死の臨床研究会年次大会	5

日本ホスピス緩和ケア年次大会	2	滋賀県連携 RH 学会（介護福祉士）	1	リスクマネージメント研修(介護福祉士)	1
サービス提供者ファーストステップ講習会(介護福祉士)	1	レクレーション音楽療法について(介護福祉士)	1		

院内看護研究テーマ－・メンバー一覧表

各部署	テーマ	メンバー
１病棟	当病棟における踵部減圧方法の見直し	廣田・野尻・西村
２病棟	医療依存度の高い脳卒中患者･高齢介護者への退院指導評価	山口･小岸 太田・田中(CW)
３病棟	園芸が患者に与える影響を考える	西村・池田・樋上
ホスピス	遺族ケアの充実を目指して	高橋・西浦・坂田・川分・赤澤
外来	効果的なインスリン自己注射の指導を目指して	布施・寺村・寒出・吉嵜
中央材料室・手術室	手洗いについての調査	中上・古澤・山口(久)

５．課題：

・新しい理念の基、安全・安楽で安心できるケア実践を目指し、教育・指導に取り組む。
・健全経営のためベットコントローラーを中心とした看護部、医局、地域連携室との細やかな連携。
・高齢患者産の増加に伴う認知症ケアの充実を目指し、院内「認知症ディケア」の開設。
・看護部職員が心身共に安心して健康で働き続けられるシステムづくり。
・リクルート活動を定着させ安定した人材確保に繋げる。
・WLB 事業に取り組み働きやすい職場づくりを目指す。
・チームケアの充実を図り病院の使命を果たす。
・病院機能評価認定取得に向け取り組み、より良い病院づくりを目指す。

２０１２年度（平成２４年度）報告　　１病棟（一般病棟）

１．目標：１．看護の役割を熟知し、チームで患者に関わり個々に合ったケアを提供する
２．急性期病棟（亜急性期病床も含む）として経済性を考えた病棟運営を行う
３．医療安全・危機管理体制を整え、安全なケアを提供する
４．教育、自己啓発の支援を行い個々のレベルアップを実現する

２．今年度のトピックス
＊今年度はチームケアの取り組みとして、カンファレンスを積極的に開催していくことを考えた。
まず､スタッフカンファレンスを毎週金曜日９時～9時半に行うこと､チームカンファレンスは医師、ＭＳＷ、リハビリ、外来等が参加いただくよう設定した。
＊ＮＳＴ充実に向けて、スタッフ１名を研修に出し、コアＮｓ２名体制にする

３．実績
成果、評価：カンファレンスに医師の参加があることで、ケアの方向性が統一できた実感が持てた。
今年度は他病棟との特殊性を活かし連携したことで､全般に入退院がスムーズにできた。特に後期は稼動率を保ちながら待機患者さんも随時受け入れることが出来た。しかし、前期（4月5月6月）の稼動率低下が影響し目標の85%には至らず平均83.8%の稼働率で終わった。
亜急性期病床に関しても前期の３ヶ月が数日途切れてしまったことで､99.8%の稼動率であったが、ＭＳＷと連携を取って院外ばかりでなく、棟内からの急性期後の患者を亜急性期に移行することができた。

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
一般稼動率（%）	77.3	71.0	78.7	86.0	90.3	85.2	81.6	83.4	92.7	84.3	91.4	83.7
入院数（人）	５５	６１	４６	６０	５７	５９	６２	６３	４７	５２	５８	６０
退院数（人）	５０	３９	４９	３９	５０	６１	４４	５４	４９	３９	５５	５１
亜急性期稼動率（%）	95.3	97.6	99.0	101	100	101	100	101	100	101	100	102

４．教育：１病棟勉強会

4月15日 4月23日	クリニカルパス使用にあたって（木村、神） クリニカルパス使用の実際　　（木村、神）
6月16日	脳卒中の急変サインに気づくために（穐山Ｄｒ）
7月3日	経腸栄養の使い分けについて （小瀬木Ｄｒ、クリニコ）
8月31日	フットケア（外来：吉﨑Ｎｓ）
12月4日	ＥＫＧモニターの見方（滝川Ｎｓ）
1月30日	手術前後の看護（小西綾子Ｎｓ）

研修参加：師長：看護管理研修「分かりやすく経営を学ぶ」「認知症ケア」
「診療報酬改定と看護部の経営マネジメント」
「看護管理者のための数字力養成講座」
主任：新人看護職員研修体制（考案と運営）、医療安全対策研修
「正しく実践標準予防策、感染管理スキルアップ研修」
「医療安全管理者養成研修」
新人研修：「看護職として組織人としての意識の確立」1名
「医療安全　フィジカルアセスメント」「輸血、医療ガスについて」
看護技術研修「人工呼吸器管理」1名
スタッフ：高齢者の理解と認知症患者への対応1名、3年目研修2名
「NST 研修1名、退院調整関係者研修」1名
「初めての」看護研究1名、「プリセプターシップ」3名

研究：踵部減圧方法の見直し

5．課題：

・カンファレンスに医師が参加いただけるよう調整をこまめに行なう。
・ＫＯＭＩシステムで看護展開する力をつけるため、個々のレベルに合わせた指導と棟内で事例検討会を行なう。
・ケアを振り返る機会としてディスカンファレンスを意識的におこなえるようリーダーにから働きかける。
・亜急性期病床に関して、改正したマニュアルを周知し、スタッフが一般病床入院中の患者のケアカンファレンスから継続ケアの選択肢の一つとして亜急性期病床をすすめていけるよう運営する。
・クリニカルパス委員会と連携をとって使用の拡大。
・ＮＳＴ再開まで継続してカンファレンスを行なう。

２０１２年度（平成２４年度）報告　　2病棟（回復リハビリ病棟）

１．目標：

１，看護、介護の役割を熟知し患者個々に添ったケアを提供する。
２，経済性を考慮した病棟運営を行う。
３，医療安全、危機管理を行い安全と安心を確保する。
４，健康管理に留意しスタッフの自己啓発を支援する。
５，病院機能評価の受審で得た医療、ケアの質を継続する。

２．今年度のトピックス：

チーム制の廃止、夜勤ＮＳ１人体制、申し送りの廃止、４２人全体の患者をどのスタッフもケア出来る様にＡＢチームのチーム制を廃止した。また、夜勤２人看護師体制から１人看護師体制へと変更。
リーダー板、ホワイトボードを工夫し患者とスタッフの流れ(動き)が一目でわかるように体制を取り申し送りの廃止にも繋げられた。

３．実績・成果・評価：

	稼働率（%）	患者数（人）	アクシデント(件)	インシデント(件)	在宅復帰率(%)
4 月	92，6	38，9	1	19	62，5
5 月	86，4	36，3	0	19	100
6 月	90，8	38，1	0	14	87，5
7 月	84，7	35，6	1	17	84，6
8 月	92，7	38，9	2	12	100
9 月	95，8	40，3	2	5	66，7
10 月	92，6	38，6	1	10	55，6
11 月	94，1	39，5	0	11	75
12 月	94，0	39，2	3	10	73
1 月	93，7	39，3	0	9	72
2 月	92，6	38，6	0	9	91，7
3 月	92，6	38，9	1	19	88，2

ケアの質を高めるため毎週木曜日にケースカンファレンスを定例化して行った。また各々が係りの活動を年間計画に沿って実施した。CW 会・NS 会・リーダー会・詰所会を毎月行い情報の共有化、問題解決に向けて病棟全体で取り組んだ。地域連携パス（“三方よし”・“彦っと”）研究会に参加し他施設、病院との情報共有、回復期の役割について学んだ。体調を崩すスタッフがありメンタルサポート体制、ワークライフバランスの重要性を感じている。スタッフの目標面接を行いスタッフのやる気を引き出し組織目標に繋げられるように努力した。

4．教育・研修：

・脳卒中リハビリテーション看護
・新人看護職員研修
・感染管理セミナー
・看護管理者の倫理的配慮
・正しく実践、標準予防策
・感染管理スキルアップ研修
・リスクマネージャー交流会
・高齢者の理解と認知症患者への対応
・職場におけるメンタルヘルス対策
・フィジカルアセスメント
・看護を教える人のリフレクション
・認知症について
・チーム力を高めるリーダーシップとフォローワーシップ
・介護アロマテラピー講座
・介護研究ゼミ
・介護研究発表会
・日本介護学会
・ファーストステップフォローアップ研修
等

研究

・「余暇時間を楽しむ時間に～日課に興味のある遊びリテーションを取り入れて～」
第 4 地区支部発表
・「医療依存度の高い、脳卒中患者、高齢主介護者の退院指導評価」

5．課題：

・アクシデント，苦情をなくし患者の視点に立った良質な医療の実践していく。
・チームケアの成熟を強化し ADL 向上、在宅復帰を達成していく。
・認知症、高次脳機能障害患者への対応が不十分と感じている。
・ゴールデンタイム時の人員の確保が必要。

２０１２年度（平成２４年度）報告　　３病棟（医療療養病棟）

１．目標：

①　看護・介護の役割を果たし、その人らしさを支える継続ケアを実践する。

②　チームで情報共有し、危機意識を高め、安全で安心できるケアを提供する。

③　稼働率の安定した病棟運営を行い、医療療養病棟の役割を果たす。

④　看護、介護それぞれの役割の中で、共に支え合えるチーム環境、自己啓発を支援する。

⑤　病院機能評価の受診準備を整え、チーム医療の充実、ケアの質の向上へ繋げる。

２．今年度のトピックス：

①　１１月には３人夜勤への業務改善を行った・・・ＮＳ会、ＣＷ会、詰所会で話し合いを積み重ね業務整理を行った。栄養科の協力も得て注入食の改善も行った。

②　朝の申し送り廃止・・・夜勤から日勤への申し送りを廃止し、カンファレンスの時間を作った。

③　３人夜勤への取り組みによりスタッフの負担感も大きく、チームの連携として問題を感じ、詰所会にて「連携」についてＫＪ法で話し合いを持ち、カテゴリーに分けスタッフ間で共通理解した。

④　１件のクレームより、私たちの患者との関わりの中で、考えさせられることがあった。１１月には、「患者と向き合えていないと感じる場面」というテーマで、ＫＪ法で話し合いを行った。一人一人は様々なジレンマも持っている。話し合う場を大切にし、患者の立場に立てるような患者体験の場を作るなどの工夫もいる。

⑤3 病棟で初めての新人さんを受け新人指導に取り組んだ。

３．実績：

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
患者数	55,1	56,1	55,6	58,2	57,7	57,3	57,3	55,7	57,7	57,1	58.7	57.9	57.0
稼働率	91,8	93,5	92,7	97,0	96,2	95,5	94,5	92,8	96,2	95,2	97.8	94.8	94.8
医療区分	70%	67%	70%	65%	75%	75%	76%	76%	69%	67%	69%	73%	72%

（評価）

・目標稼働率には達しなかった。後期上昇傾向にはある。医療区分に関しては平均して７０％超えた。重症の患者さんが多く、稼働が安定しなかったと考える。１年を通して考えると昨年より、稼働率、医療区分とともに上昇している。地域連携と連絡を密に取りスムーズな入院につなげられた。緊急入院にも対応することができた。

・２週間から３ヶ月などレスパイトは受けている。介護の負担をとりながら、医療依存度の高い患者さんでも家族の思いに寄り添い、在宅で過ごせるよう支援していきたい。医療療養の大きな役割の１つと考える。

・退院区分として在宅 22.5%　施設 12.3%　転院 5.6%　死亡 48.3%であった。
・インシデント 120 件　①転倒転落②配薬③観察不十分であった。
・アクシデント 65 件　アクシデントの内容としては、表皮剥離４５件　爪のトラブル８件　誤薬５件　転倒による外傷 2 件　気管カニュレの自然抜去２件　　胃瘻自己抜去１件　窒息１件　原因不明の外傷１件であった。原因として観察不足もあり、観察項目表を作成し、ポケットに入れて意識づけしている。インシデント、アクシデントのスタッフ間の共有も不十分と感じる。

４．教育：

①研修

ＮＳ：「プリセプターシップ」「初めての看護研究」「ＫＯＭＩケアセミナー」「看護職のワークライフバランスを進めるポイント」「新人研修」「医療安全フィジカルアセスメント」「看護管理者の倫理的配慮」「災害発生時の看護対応とマニュアルの整備」「看護管理者のストレスマネジメント」「ＨＩＶ感染研修」「在宅推進のための看護職員研修」「グリーフケについて」

ＣＷ：「福祉レクレーションショップ」「ファーストステップ研修」「レクレーション音楽療法について」

②研究

「園芸が患者に与える影響を考える。～療養病棟入院患者に試みて～」のテーマで研究した。
園芸を通してＫＯＭＩの視点で見ることが出来て、改めて患者の変化に実感できた。園芸をレクレーションの中に入れて、継続していきたい。

③実習

近江八幡市立看護学校実習・・・年３回
高校生体験・・・３名

５．課題：

・稼働率、医療区分の目標達成。
・チームケアの強化。（部署内、他部署、他職種）
・働きやすい環境作り。
・患者体験のできる場を作ったりしながら、ケアについて考える機会を持ち患者に寄り添うケアの実施。
・2 卒目の指導
・医療療養の中で、家人との関わりを大切にしていく。
・ＣＷの積極的な研修会参加
・災害時の病棟マニュアルの作成。災害時の病院のマニュアルの周知。

２０１２年度（平成２４年度）報告　緩和病棟（ホスピス病棟）

１．目標：

１）チームケアの充実を図り全人的ケアを提供する。

２）システムの評価・修正を速やかに行い、稼働率維持を考えたホスピス運営を行う。

３）危機管理体制を徹底し、安心・安全なケアを提供する。

４）ストレスマネジメント能力の向上を図り、自己啓発の支援を行う。

５）病院機能評価付加受審え得た課題に取り組み、ケアの維持向上を目指す。

２．今年度のトピックス：

・昨年度ホスピスにて撮影したドキュメンタリー映画「いのちがいちばん輝く日―あるホスピス病棟の40 日―」の上映にて啓蒙活動を開始した。

・日本死の臨床研究会の実行委員長・実行委員・ボランティアとして病院をあげての協力体制で取り組んだ。

・１０月～緩和医２人体制となり、それに伴うシステムの改善・変更を行った。

・緩和ケア認定看護師資格取得者１名。

・新人ケアワーカーの配属があり、教育体制を検討しながら取り組んだ。

３．実績：

	入院	退院	稼働率	コンサル	転入	在宅率
4 月	12	10	78.13	2	1	50.0
5 月	12	17	60.44	2	1	17.65
6 月	13	12	64.38	3	0	16.66
7 月	7	8	57.81	6	1	12.5
8 月	10	12	72.13	4	4	16.6
9 月	10	12	65.38	1	1	8.3
10 月	22	18	82.63	2	3	16.6
11 月	15	15	79.38	4	1	20.0
12 月	12	13	88.88	1	0	15.38
1 月	16	17	84.63	1	1	17.64
2 月	15	18	90.38	2	1	22.22
3 月	12	16	82.44	6	1	14.28
平均	13	14	75.55	2.83	1.25	18.98

・見学者数：　３１人　・相談件数：　２８件

・外来数：４５８件（新患１６８件、再診２９０件）

・インシデント件数：９４件、アクシデント件数：８件

・遺族会：偲ぶ会　２回／年（延べ１８家族、２６人参加）、ライラックの日　２名参加／年

成果、評価：

・目標稼働率達成に至らなかった。前期の医師１人体制の中で、学会実行委員長など院外活動が多かった。後期は医師２人体制となり、院外からの紹介率も約１．５倍あり少し改善した。

・認定看護師の活躍により、コンサルテーションの継続・講義など多岐にわたる教育・啓蒙活動でホスピ

ス運営に貢献した。
・ホスピス外来運用の中で患者個人ファイルをホスピス外来管理に変更した。
・登録患者の在宅療養を支えるため、地域と連携しながら病棟スタッフで患者・家族のケアを行い、デイホスピスのモデル的ケアとなった。また在宅看取り・レスパイト受け入れなども取り組んだ。
・遺族会の内容について検討を重ね、遺族同士が交流できるように工夫し、充実してきている。ライラックの日の参加は少ないが日常的にある遺族の訪問に対応している。
・ホスピスボランティアの活動も少しずつ広がり、ボランティア主体の行事などに取り組んだ。
・「生と死を共に考えるところ」として地域に開かれた活動の中で、多くの実習・研修を受け入れた。

４．教育：
・豊郷准看護学院　２日間：１３名
・豊郷病院　2 日間：看護師５名
・ボランティア講習：３名受講
・近江八幡市立看護専門学校　５日間：２９名
・近江兄弟社中学生　２日間：３５名
・滋賀医科大学６回生　３週間：２名
・姫路聖マリア病院　5 日間：医師１名
・寿々ハウス　2 日間：看護師１名、ケアワーカー４名
・関西学院研究生　3 日間：1 名
・岐阜中央病院ボランティア交流会：９名
・あそかビハーラクリニックボランティア交流会：９名

研修
・滋賀緩和研究会：２回／年　延べ 10 名参加（前期は当番世話人として企画・運営）
・京滋緩和ケア研究会：２回／年　延べ 9 名参加（世話人１名）
・第３６回死の臨床研究会年次大会：10 名参加（実行委員・ボランティアとして参加協力、２症例発表）
・日本ホスピス緩和ケア協会年次大会：2 名参加
・緩和ケア認定看護師：資格取得１名ストマ講習会：資格取得１名
・研究ストマ講習会：資格取得１名

研究
・「知ってる人に看て欲しい！！」～在宅療養でサービス導入を拒んだ家族ケア～
・「ここでの料理作りがこいつの生き甲斐でした」～生きる意味を喪失した患者のＱＯＬを支えたケアを振り返る～
・患者・スタッフとも追い詰められた１事例～すすり泣き続ける患者への全人的ケアを考える～
・「ホスピスにおける希望を支える援助」～最期まで治療をあきらめないケースの一考察～

５．課題：
・現任用教育プログラムの作成、ボランティア教育と活動のコーディネート
・デイホスピス運用開始に向けて、具体的な計画・病院との連携に関する活動
・院内コンサルテーションシステムの連携と周知
・稼働率維持のため、待機患者の確保につながる地域との連携と在宅療養の支援

２０１２年度（平成２４年度）報告　　外　来

１．目標：

①外来看護の役割を追求し学んでいったことを実践に生かして、患者・家族が満足できるケアを提供する

②内視鏡看護の向上に努める

③医療安全・危機管理を行い、安心・安全・信頼を得られるケアを行う

④効率を上げるための迅速な業務改善や、他部署・地域との連携を行い病院経営に参加する

⑤職員それぞれに合った自己啓発やスキルアップを支援し、個性を生かしたケアが提供できる

２．今年度のトピックス：

①医療クラークの導入

②外来と内視鏡の統合

３．実績：

成果、評価：

＊ 待ち時間の活用・自己の健康への関心につながることを期待して、血圧計・体重計を診察室近くに設置した。

＊ 「患者様の声」からのご意見を大切にし、また患者サポートチームの結成により、関係部署で話し合いを持って患者サービスの向上に努めることができた。

＊ 待ち時間の短縮や診療をスムーズに行うためと医師の業務負担の軽減のため、医師診療補助業務を担当する「クラーク」が導入。導入を始めたばかりなので、今後評価をしていく。

＊ 各診療科の担当看護師は、診察を受けられる患者の状態を把握するように声かけをし、スムーズな診療が行えるよう配慮できている。

＊ 在宅療養生活に関して、訪問看護・ヘルパーステーション・居宅支援事業所・地域連携室などと必要時連絡・調整を行っている。

＊ 外来と内視鏡の統合により連携が充実し、地域の向上に努めている。

＊ 開業医からの検査・診察依頼の受け入れをスムーズに行うため、関係部署と話し合いを持ち、マニュアルを作成した。

＊検診室と連携をとり、二次検診の受け入れ態勢を整えている。

４．教育：

＊部署内勉強会・院内外研修などに積極的に参加できている。

＊糖尿病療養指導士の資格を持った看護師が中心となって、勉強会をしながら患者へのケアや職員の教育を行っている。

５．課題：　＊電子カルテの導入の伴う業務整理、医療クラークの導入に関わる業務整理・委譲。

＊電子カルテを活用しながら無駄のないマニュアルを作成して、すぐに適応できる外来環境・風土作りを進める。

＊事務業務で、医療クラークが関わらない業務の医事課への委譲。

＊外来と内視鏡の統合と中材・手術室との統合も加わることで、業務改善の検討。

２０１２年度（平成２４年度）報告　　事務部

１．目標：

1. 本年度事業計画及び予算達成に向け、各部門と協力し推進する。
2. 里の機構改革に伴い、老健・在宅との連携を図り、健全な運営管理ができるように努力する。今年は里全体の人財管理体制を確立する。
3. 新人事制度を活用し、職員一人々の能力アップを図る。
4. 24 年診療報酬改訂に伴い、算定要件を熟知し申請を進める。
5. 健診業務の安定化を図る。
6. 患者サービスを向上させ、接遇力を身につける。
7. 電子カルテ導入により、IT 化の充実を図り、カルテ管理を含めた情報管理を徹底させる。
8. SPD（物品管理システム）を初めとする物品購入の一元管理を進め、経費節減の効果をだす。
9. 病院付けチャプレンの役割を深化させ、基本理念等、教育の一翼を担う。
10. 25 年の機能評価新バージョン更新に向けて各分野で準備を整える。
11. 地域連携課の役割を明確にし、地域ニーズに合った運営を展開する。
12. 働きやすい環境を整えるために、特に託児所運営の在り方を検討する。

２．今年度のトピックス：

24 年診療報酬改定に伴い今年度も多くの施設基準の届出を行った。電子カルテが本格的に稼動するに当たって院内の情報管理の整備が急務とされた。年度当初は患者数、病棟の稼働率も目標を下回り滑り出しは低迷した。打開策として事務部は開業医との連携を密にし、安定的な患者紹介が行われる提案を行い医師と共に開業医への訪問を行った。又、病病連携の充実（回復期リハ・緩和ケア）を図るため新規開拓を湖西地区に求め訪問を行った。

３．実績：成果、評価：

月次予算を確実に達成するため戦略会議では開業医訪問・病院訪問等、目標達成の為に事務部として積極的に提案を行い行動を起こした。健診については売上げ目標の達成、2 次健診の体制作りに尽力した。医事課については電子カルテの運用に伴い、業務整理・作業効率をあげ時間外賃金の節減に努めた。庶務課に至っては一般経費削減目標の達成、エネルギー関係では夏・冬の節電対策を考慮し基本料金引下げに寄与した。しかしながら灯油・LPG の価格高騰は如何ともし難く、エネルギー資源の転換期にさしかかっている。SPD 在庫管理においては年間を通じ適正在庫管理に努めた結果、前月前年対比の圧縮がはかれた。診療情報管理室では電子カルテによる診療録の適正化に注力し院内監査の徹底やサマリーの達成率を向上に努力した。地域連携課では医事課と協力し、開業医との連携を密にし、安定的な患者紹介が行われる提案を行い医師と共に開業医への訪問を行った。又、病病連携の充実（回復期リハ・緩和ケア）を図るため新規開拓を湖西地区に求め訪問を行った。総務課では人権問題を中心に労務の研修会等に積極的に参加し、少しでも内部顧客（職員）に還元できるよう努力をした。雇用対策（障害者雇用）についても積極的に財団として病院・老健センターと協力し、就職説明会への参加、優良事業所の見学会への参加を行った。

４．教育：

健診室では新人職員に対し健診の流れを教育実施。医事課では医事研究会への参加を積極的に行い、医科点数の解釈・理解に取組み、個々のｽｷﾙｱｯﾌﾟに繋げ、他病院の動向・情報収集に注力した。庶務課では省エネ・防災・危機管理・機能評価等を中心に研修会への参加。地域連携課では地域における研修会・ＭＳＷ協会での研修会、勉強会に参加し、東近江の三方よし研究会や彦根地域連携パス会議への参加も積極的にした。

５．課題：

事務部全体として外来フロアの効率的な人員活用について各部署との連携を保ち非常勤職員の配置等を検討したが実際にはうまく運用できず頓挫してしまった。非生産部門として事務部のできることは、いかに無駄な経費を省き、安定した収益をあげることができるか絶えず考え、現状に満足することなく向上していくことだと考えます。

２０１２年度（平成２４年度）報告　　医事課

１．目標：

① 医事課は患者さんと一番最初に接する窓口であると言う事を常に自覚し、患者サービスの向上を目指し、笑顔と思いやりのある接遇力を身につける。

② 新医事会計システム導入と電子カルテ導入した事により、業務の効率を良くし、適正な人員配置を行う。

③ 常業務の請求業務の点検に力をいれ、算定漏れ・ミスの防止に努める。

④ 他部門との連携をはかり、当院の動向について統計資料や医事コンより各部門に月報資料を提供する。

⑤ 保険制度の変更や診療報酬改正への対応。適切な進行管理、院内他部門との連携強化等により、適正かつ公正な診療報酬の請求を行う。

⑥ 未収金の管理、督促及び徴収に係る事務作業を行う。

２．今年度のトピックス：

① 平成２４年より電子カルテ導入したことにより、医事課の業務整理を行う。

② 平成２４年４月診療報酬改正の為、新規算定可能の診療報酬の申請と算定。また、４月中には算定要件を満たしていないが、今後算定可能な項目がある診療報酬において、算定要件を満たすよう各部門と協力し算定していく。

③ レセプト請求業務は、医療事務の質を評価する上で、レセプトの「査定」「返戻」の数値は重要です。平成２４年２月に電子カルテより電子カルテが導入されました。病名漏れや旧保険証にての請求で査定や返戻がありました。査定・減点を減少することを目標に、日々病名チェックの強化を図りました。また、毎月１回減点・査定減・返戻された内容を医事課内で報告し検討し、スキル向上を目指しました。

３．実績：

減点（円）

４月	５月	６月	７月	８月	９月	１０月	１１月	１２月	１月	２月	３月
121,264	107,226	64,855	104,278	169,069	104,980	77,016	62,753	55,270	60,493	65,184	91,686

４．教育：

研修　平成２４年度第２回医事研究会

内容　「支払基金の現状及び取組状況について」「突合・縦覧点検の留意事項及び概況について」「オンラインによる再審査等請求について」

５．課題：

平成２４年度は、電子カルテの導入、診療報酬の改定と医事課にとって大きく変革した年でした。診療報酬の算定漏れがないよう電子カルテとのマスタの紐付け等課題があり今後も継続していきます。また、未収金に対し毎月定期的に患者さんに連絡を行い、未収金に対し毎月、医事課内で検討するようにしました。今後も継続し病院経営の収入が増えるよう業務を行って行きます。

２０１２年度（平成２４年度）報告　　総務課

１．目標：

効率の良い収支バランスを追求する。

“ヴォーリズ医療・保健・福祉の里“全体の人財管理体制に着手し、健全な労働環境を整える。

事務作業の効率化を図り、業務の簡素化を目指す。

事業計画及び予算達成の為、正確な資料提供を行い、予算と実績の照会を行い、適切なアドバイスを随時提供する。

所定労働削減のための措置の取組み、職員が安心して働ける労働環境の整備に努める。

２．今年度のトピックス：

電子カルテが本格的に稼動するに当たって院内のセキュリティシステム、個人情報の取り扱いが重要視され、当課でも職員のパスワードの発行・アクセス権・権限の制限をかけるにあたり個人情報の整備が急務とされた。

３．実績：成果、評価：

今年度は毎年恒例であった職員の厚生旅行の中止、就業規則の一部見直し（賞与の業績連動）と、職員にとっては大変厳しい年となった。

電子カルテが本稼動した年であり、診療報酬の改定の年で、効率のよい人財管理に着手しないと健全な病院運営ができない中でのスタートであった。年度当初は患者数、病棟の稼働率も目標を下回り滑り出しは低迷した。しかし、6 月以降、病棟の高い稼働率や医局、看護部、診療技術部、事務部職員全員で団結し、最終的にはなんとか予算達成を行うことができた。

人権問題を中心に労務の研修会等に積極的に参加し、少しでも内部顧客（職員）に還元できるよう努力をした。

雇用対策（障害者雇用）についても積極的に財団として病院・老健センターと協力し、就職説明会への参加、優良事業所の見学会への参加を行った。

４．教育：

総務課要員の体調不良による数回に亘る業務の離脱を含め、職員数も増加し課内での対応能力の不備、専門職としての知識不足と悪い面が目立った。課内の体制づくりをいま一度検討する時期にきたのかと思う。

今年度は積極的に各方面（人権・雇用・労務）へ参加し、他病院、事業所の情報収集を行い日々の業務に活用できるように取組んだ。

５．課題：

今年度は給与・労務関係の業務が、職員の信頼して働ける環境作りから程遠く、職員の方々には大変迷惑をかけたことをお詫びし、課内での個人のスキルアップ、接遇等を踏まえ事務作業の効率化と簡素化を来年度以降の目標として取組んでいきたい。

来年度には近畿厚生局の適時調査、病院機能評価の受審に向けての準備を進めていかなければならず、大変な一年となることと思う。また、新棟建築にあたり託児所の機能（24 時間保育、病児保育等）の充実がより具現化されるように努めていかなければならない。

２０１２年度（平成２４年度）報告　　庶 務 課

１．目標　～ One　for　All , All　for　One ～

①新生ｳﾞｫｰﾘｽﾞ記念病院の職員たる誇りと基本理念の実践。「病院が私に何をしてくれるか」から「自分は病院にどう貢献できるか」への意識改革。

②『4S』＝整理・整頓・整然・清潔をﾓｯﾄｰとし、院内全体の設備・備品・環境整備に注力。

③病院全体の経費項目を担う重要部署であることの再認識、常に原価・費用対効果を念頭に置き、“聖域”を設けず経費削減（目標▲10%）に切り込む。

④常に問題意識を持って業務の効率化・生産性向上を模索する習慣作り。昨日と同じ自分は後退・成長なしとの意識醸成。

２．今年度のトピックス

①庶務課関係の一般経費では、前年対比▲12,455 千円（▲10.9%）となり、経費削減目標達成。

②ｴﾈﾙｷﾞｰ関係では、夏・冬の節電対策も奏功、電気使用量は前年対比▲3.4%、最大電力も今年度は 317kw（▲4kw）となり、基本料金引下げに寄与した。しかし乍ら、灯油・LPG の価格高騰は如何ともし難く、特に LPG は使用量▲8.6%も、金額は＋16.8%という実情。

③SPD 在庫管理においては、年間を通じて庶務課内・各部署内の適正在庫管理に努めた結果、単月ﾍﾞｰｽで全月前年対比の圧縮が図れた。

④本年度から、当課に IT 対策係が新設され、電子ｶﾙﾃ関係および院内全体の IT・ｼｽﾃﾑ全般を担うことになった。

３．実績

①一般経費関係　　（単位：円）

科目(経費)	平成23年度	平成24年度	増　減
職員被服費	2,601,330	2,051,378	▲ 549,952
通信運搬費	3,566,532	3,900,063	333,531
消耗品費	14,580,266	11,127,671	▲ 3,452,595
消耗器具備品費	12,171,421	5,002,027	▲ 7,169,394
水道光熱費	25,958,700	28,338,849	2,380,149
事務・図書印刷費	1,756,575	523,227	▲ 1,233,348
燃料費	27,880,743	28,736,194	855,451
修繕費	7,403,926	8,463,025	1,059,099
雑費	2,640,244	2,084,437	▲ 555,807
自動車費	703,370	916,673	213,303
器械賃借料	14,937,606	10,602,046	▲ 4,335,560
合　計	114,200,713	101,745,590	▲ 12,455,123

②ｴﾈﾙｷﾞｰ関係

	平成23年度		平成24年度	
	使用量	金額（円）	使用量	金額（円）
電気（病院本体）	1,421,992（kwh）	21,146,245	1,373,927（kwh）	21,105,538
上水道	18,644（㎥）	4,443,558	20,708（㎥）	4,942,012
下水道	7,274（㎥）	1,207,537	9,560（㎥）	1,775,625
灯油	252,500(L)	21,231,000	273,950（L）	22,754,078
ＬＰＧ（ﾎｽﾋﾟｽ）	20,625（㎥）	4,126,437	18,648（㎥）	5,024,116
ＬＰＧ（栄養科）	3,645（㎥）	1,033,409	3,529（㎥）	1,000,552
合　計		53,188,186		56,601,921

③SPD 在庫推移　（単位：千円）

	24/4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月
SPD 倉庫在庫合計	4,317	4,125	3,634	3,659	3,744	3,733
前年対比	▲520	▲485	▲1,287	▲967	▲671	▲528
部署在庫合計	4,203	4,265	4,152	3,626	3,407	3,354
前年対比	116	216	▲353	▲485	▲611	▲561
合　計	8,520	8,390	7,786	7,285	7,152	7,087
前年対比	▲404	▲270	▲1,418	▲1,320	▲1,282	▲1,089

	24/10 月	11 月	12 月	25/1 月	2 月	3 月
SPD 倉庫在庫合計	3,648	3,595	3,666	3,622	3,422	3,308
前年対比	▲398	▲527	▲868	▲454	▲576	▲496
部署在庫合計	3,681	3,597	3,722	3,549	3,524	3,414
前年対比	▲465	▲549	▲393	▲516	▲680	▲707
合　計	7,330	7,192	7,388	7,172	6,947	6,722
前年対比	▲863	▲1,076	▲1,261	▲970	▲1,255	▲1,203

４．教育

省エネ・防災・危機管理・機能評価等を中心に、延べ 7 日間の研修に参加した。

５．課題

①25 年度は、従来以上にｺｽﾄ意識・原価意識を高め、引続き聖域を設けずｺｽﾄｶｯﾄを図っていくとともに、特に高騰の続く電気・燃料関係の抜本的ｺｽﾄ見直しの為の設備導入を検討する。

②院内全体の IT ﾈｯﾄﾜｰｸを職員のみで管理するのは限界に来ている。25 年度はｼｽﾃﾑ室が独立、外部頭脳のｻﾎﾟｰﾄもいただきながら、病院全体の IT ﾈｯﾄﾜｰｸ環境、ｻｰﾊﾞｰ管理、職員教育態勢整備、今後の運用計画等について再構築を図る。

③新棟建築にかかる第一窓口部署として、院内の安全・環境確保に十分配慮し、工事関係業者とも綿密な交渉とｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝを通して、無事故での年度内完成を目指す。

２０１２年度（平成２４年度）報告　　礼拝堂

１．目標：

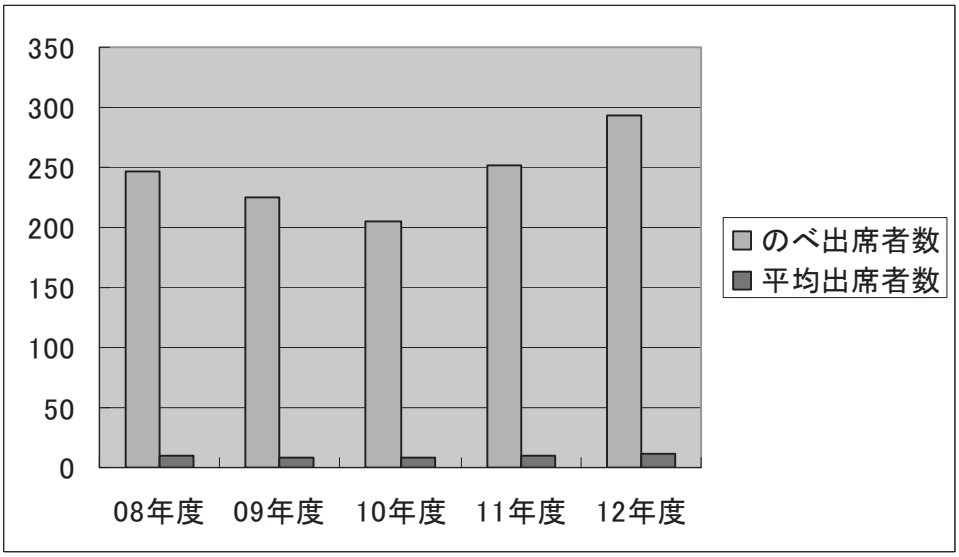
基本理念に基づいた経営なのか見極める意識を高め、病院経営へ適切な意見できるよう意識し
神から託された役割を果たすこと

２．今年度のトピックス：

日曜礼拝の参加者増加。直接日々の業務との関連は少ないが日曜礼拝の出席者が増加。主にケアハウス入居者の参加が急増。病院チャプレンとしての役割を担っているが「里」にある教会、牧師としての役割と自覚。単に病院業務に止まらず「里」における役割、機能を今後検討し評価を得たい。

３．実績：礼拝参加者の増加

成果、評価：



４．教育：

昨年になかった管理職研修の参加者として改めて理念、職員の意識を向上させることが必要であると実感。理念研修については経営企画室との共同作業を行う。職員教育という視点でより積極的なプログラム立案など今後の課題としたい。

５．課題：

① 患者さんへのチャプレンとしての関わりを中心にしているが、職員に向け個別の対応は少ないがオープンチャペル、または依頼という形で関わりが増えた。ただ病院の調整機能を果たすまでの働きはできていない。

② 新人オリエンテーションを担当。フォローアップが課題。病院全体としての育成、教育プランについてシステム化する必要を感じている。入職時期が年間を通してあり、職制も多様なため、一体感を目指すことの難しさは増している。

２０１２年度（平成２４年度）報告　　診療情報管理室

１．目標：

①　病院経営指標（機能性指標）の分析作成に努める

②　電子カルテにおける情報管理の徹底に努める

③　診療情報をカルテ開示・訴訟にたえられるものにしていく

④　退院してから１～２週間内での退院時要約（サマリー）の完成に努める

⑤　がん登録管理事業への参加継続をおこなう　他

２．今年度のトピックス：

電子カルテによる診療記録の適正化

カルテの電子化で速やかに記録を適正に行い、また、カルテの共有もスムーズに行うことで情報を管理し、早期に不備、不具合を見つけ診療記録の適正化を図っていきました

３．実績：

成果、評価：

がん登録事業参加

２０１１年（Ｈ２３）　４４件

２０１２年（Ｈ２４）１２１件

４．課題：

病院経営指標分析の作成や統計資料（診療統計、疾病統計）

がん登録など十分に業務として成し得たと感じるが、電子カルテの病棟サポートが出来ないまま年度を終えてしまったと反省がある。また、本来の診療情報管理室（士）が行う業務もあり、徹底した電子カルテサポートが１人では限界もある。

平成２５年度は電子カルテ内における業務の見直しをする部署が必要ではと考える。

２０１２年度（平成２４年度）報告　　地域連携課

１．目標：

病院機能が多様化している。地域連携に関しての期待も大きく、院内・院外における活動の幅が広がっている。前年度からの業務を継続しつつ、今年度も活動の幅を広げる。

地域連携課としての業務内容に関しても検討し、充実を図る。今年度から、病診連携に関しても地域連携課に組み込まれる。地域ニーズに応じた活動を行なう。

２．今年度のトピックス：

今年度に関しては、地域連携課として病診連携業務を担っていくこととなった。

地域開業医を訪問し、開業医よりの希望で外来予約をＦＡＸ用紙のみで対応させていただく取り組みを、4つの開業医と試作的に行なった。

また、ヴォーリズの医師直通回線も設置しダイレクトコールができるようにした。これも4つの開業医と試作的に行なっている。

湖南地域における患者流動状況に関しての聞き取りのため、次長と病院訪問を行い話を伺った。

事務処理など業務負担が大きくなり、12月より病診連携担当として事務スタッフを増員した。

今年度４月より地域連携室を“地域連携課”として、新たなスタートとなった。６月よりスタッフも１名増員し業務の拡充を図っている。

３．実績：成果、評価：

地域連携課での中心業務となるＭＳＷ業務に関しては、院内での包括病棟稼動目標を意識して各スタッフが病棟と協力し、入退院調整を行うことができている。

療養病棟・回復期リハビリ病棟に関しての稼働率安定に貢献した。

前年度よりも入退院に関して、病棟の意識が変化してると感じる。稼働率を意識しスムーズな調整ができてきており、結果として稼働率の向上につながっていると感じた。

４．教育：

研修に関しては、院内の研修会や勉強会の参加、地域における会議や研修会、ＭＳＷ協会での研修会、勉強会に参加している。

また、地域連携パスの“三方よし研究会”や彦根地域連携パス会議(脳卒中パス、大腿骨頚部骨折パス)への参加を行い学習の機会を設けている。全国回復期リハビリテーション病棟協議会の全体研修会にもＭＳＷの立場で参加した。

５．課題：

患者数の安定に必要とされるのは、スムーズな入退院調整であるが、入退院とも課題となるものがみえる。まず入院に関しては、ＡＤＬ・認知症状況に応じての対応のため、ベッドの空きだけでの入院調整が困難な点がある。また、入浴日や週明けなどの受入れは困難なことが多く調整できる日が限られてしまう。

このような状況の中で、療養病棟・回復期リハビリ病棟に関して、ベッドコントローラーや各病棟と協力しスムーズな入院と転院が意識づいてきている。

しかし、退院・転棟に関しては、主治医との退院・移動時期の目安がはっきりとせず、一般棟での在院日数が長期化するケースもあった。

どの病棟で入院を継続していくことが適切なのかを医師だけでなくＮｓ・ＭＳＷ・リハビリ・コメディカルなどのチームからも相談できる体制を作る必要性も感じた。

紹介に関しては近江八幡市立総合医療センターを中心として東近江圏域やそれ以外の地域からもあるが、今後回復期リハビリ病棟が湖東圏域・湖北圏域に開設することもあり、紹介患者数の減少傾向もある。

地域医療の充実を図るため、近江八幡市立総合医療センターとの連携に関しては重要になる。具体的な近江八幡市立総合医療センターとの連携方法の模索が必要である。実際に近江八幡市立総合医療センターが望んでいる調整に関しては、急性期の患者受入れのレスポンスの良さである。 そのためには、外部へのＰＲよりも院内での統一した入院受入れ方法の拡充が急務である。

近江八幡市立総合医療センターへの定期訪問に関しては、週１回、行なうことができていなかった。

連携の取り方に関しては課題として継続検討である。

院内の足並みをそろえて紹介患者受入れを行うため、地域連携課が窓口となり、紹介患者のスムーズな受入れを行うためには、ベッドコントローラーの役割の強化が必要である。現在何床の空きがあり受入れが可能なのか、病棟間の移動を行い一般病棟の受け入れを調整する機能も求められる。

開業医への訪問に関しては、病診連携の側面から訪問している。ここでもレスポンスのよさを求められているが、具体的に病院として何ができるのかを伝えていける手段が必要である。院内でも検討し開業医の満足が得られるよう今後も検討課題として対応していく。

２０１２年度（平成２４年度）報告　　健診室

１．目標：

・売上実績目標４，８５０万円を達成する
・健診運営の安定化を図る
・医事課より引き継いだ、２次検診の体制を確立する

２．今年度のトピックス：

・１人の受診者単価のＵＰが出来る様に、コースの追加・オプション等の充実を目指す
・１日当りの受診枠（10 枠）の上限を上げる（簡易コース枠３枠を廃止）
・２次検診の体制の確立

３．実績：

【成果】

売上実績　５，４１３万円

【評価】

・売上実績　前年比　５．８％　↑　・受診数　前年比　２．５％　↑

オプション

・脳ドック　前年比　３７．８％　↑　・肺ドック　前年比　６０．０％　↑
・乳房ｴｺｰ　前年比　３２．４％　↑
・胃透視　前年比　８．３％　↓　・胃カメラ　前年比　１４．１％　↑

・２次検診売上　前年比　４２．９％　↑

４．教育：

・新入職者への年間の健診の流れを指導、教育を実施

５．課題：

・１日当りの受診枠（10 枠）の上限を上げる（簡易コース枠３枠を廃止）をすることにより、受診者に各検査の待ち時間及び、診察の待ち時間が増えた事に対しての解決策が今後の課題。
・２次検診の体制を確立は出来たが、明確化されておらず、連携する他部署に周知が出来なかった事に対しての共有化を目指すことが今後の課題。
・年間の繁忙期と閑散期の平均化の課題。

２０１２年度（平成２４年度）報告　　経営企画室

１．　目標：

① 理念に基づく公益法人全体の中長期計画（３ヶ年）の策定への着手とその進捗の確認。

② 「ヴォーリズ医療・保健・福祉の里」全体の広報、採用、人事、教育活動の体系化されたパスを作り上げる。

③ 日々の経営数値の確認と全院目標実現に向けての行動発信。

④ 「ヴォーリズ医療・保健・福祉の里」、病院内外での突発的な事項へのスムースな対応。

２．今年度のトピックス：

＊病院ホームページを新しくするため、プロジェクトチームを立ち上げた。病院と関係する事業体ともリンクし、タイムリーな情報公開を実現する。２５年度初旬には完成の予定。

＊戦略運営会議の発足。当該月の健全運営を検討するため速報値をもとに検討する場を設けた。

＊教育委員会と連携した全職員対象の研修会すべてに、病院基本理念のショート研修を組込み実施した。

＊公益事業の一環として、地域への貢献を実現するために「出前講座」を企画した。

３．実績：

成果、評価：

＊経営安定化に向け戦略運営会議で外来・病棟毎に解決すべくテーマが決められ、実践的な取り組みができるようになった。

＊管理職者対象の研修会（講師はメディプロ佐藤氏）「ノンテクニカルスキル」を学び、一定の評価を得る。具体的な提案事項を決定し、短期、長期計画を立案する。

＊病院外部との対応、交渉をおこなった。ことに２５年度建築予定の新棟に関係する事項について。

４．教育：

外部研修：クレーム対応と実践

地域で支え合う医療

５．課題：

＊人事制度の精度アップと公益財団全体への拡大。

＊月によって変動する収支を安定させる。経営安定への取り組み。

＊人材の確保。とくに看護師・介護福祉士の充足。

＊病院基本理念の臨床現場での実現

＊管理職者研修会で提案された事項の実行、実現。

２０１２年度（平成２４年度）報告　訪問看護ステーションヴォーリズ

１．目標：

①基本理念に基づき、「里」、「病院」、「老健」、「在宅」が同じ方向に進むよう協力し、連携をとりつつ　、より地域から信頼される訪問看護を目指す。

②年齢を問わず医療依存度の高い重症ケースや難病等の困難ケースに積極的に対応できるよう体制を整え、満足していただける質の高い訪問看護を目指す。

③癌末期に限定されない在宅ターミナルケアをヴォーリズの居宅・訪問介護と協働し、最期までその人らしい生活を支援していく。

④スタッフ一人ひとりの能力の向上と人材確保及び定着化に努める。

⑤法人の経営方針に沿い、収益の向上と経営の安定化を目指す。

２．今年度のトピックス：

昨年度に比べ、常勤換算にして約１名減にも関わらず訪問件数が５１２件増となり、収益が制度改定もあり約１５,０００千円と予算を大幅に超えた。県内初の在宅看護専門看護師を迎えることができ、訪問看護の質の向上と人材育成に力を発揮している。また、「介護職員等の痰の吸引等の手技指導者」も１名習得し、次年度からの連携に臨んでいる。在宅看護実習指導者は５名となり、実習の受け入れ体制も整いつつある。

３．実績：①訪問件数

	４月	５月	６月	７月	８月	９月	10月	11月	12月	１月	２月	３月	合計
医保	264	275	306	285	279	278	277	295	298	289	297	332	3475
介保	383	445	453	469	452	380	436	409	431	383	357	370	4968

②訪問件数比率（%）

	４月	５月	６月	７月	８月	９月	10月	11月	12月	１月	２月	３月
医保	４１	３８	４０	３８	３８	４２	３９	４２	４１	４３	４５	４７
介保	５９	６２	６０	６２	６２	５８	６１	５８	５９	５７	５５	５３

③職員構成　　管理者（正看護師）１名、在宅看護専門看護師１名（非常勤）、
正看護師１０名（常勤４名、非常勤６名）、理学療法士２名（非常勤）、
事務職員１名（非常勤）

成果：

訪問件数（医療・介護保健）比率は、ほとんどが４：６から５：５に近い状況で（普通は２：８くらい）、医療保険のケースが多く重症度も高かった。２４時間オンコール体制で運営しているが、多い時で４３件/月緊急出動している。また、癌疾患の他ターミナル期の方は月平均１２名と多く、在宅看取りは年間１４名であった。地域からのニーズは切れることなく、「ヴォーリズの訪問看護」を求めて下さっている。

４．教育・研修・その他の活動：

院内の研修はもちろんのこと、「小児訪問看護」「認知症研修」「在宅ターミナルケア」「呼吸リハビリテーション」「訪問看護管理者研修」等、専門分野の研修会に数多く参加し、知識・技術の向上に努めることができた。また、在宅看取りに関するシンポジウムでの講演をはじめ、特別養護老人ホームや老人クラブ連合会などでも発表を通して交流している。

５．課題：

医療機関からの早期の退院や高齢化時代の流れで、地域からのニーズは年々増えてきている。しかしながら、そのニーズに対応する人材の不足は毎年の課題である。「訪問看護」の魅力を発信することはもちろんであるが、「働きやすい職場作り」と処遇改善を視野に入れ、利用者の受け入れを断ることのないよう努めていきたい

２０１２年度（平成２４年度）報告　　ﾎｰﾑﾍﾙﾊﾟｰｽﾃｰｼｮﾝ　ｳﾞｫｰﾘｽﾞ

１．目標

２５年度は「介護職員による喀痰吸引等」が出来る事業所として登録し、質の高いサービス提供が出来、地域から信頼される事業所を目指していきたい。厳しい経営状況の中、事業継続のため効率のよい運営が出来るよう努力していきたい。

２．今年度のトッピクス

平成２４年度は、介護職員による喀痰吸引の資格習得に２名の常勤職員が長期にわたり出席したにもかかわらず他のスタッフの協力により利益を落とすことなく乗りきる事ができた。介護保険、障害者共に利用者数も増え、ニーズにあったサービス提供が出来た。

３．実績

(1)訪問回数

	４月	５月	６月	７月	８月	９月	10月	11月	12月	１月	２月	３月
介護保険	976	990	933	988	888	942	1074	1017	910	820	790	976
障害者支援	120	150	145	143	136	129	147	135	132	123	128	127

(2)活動体制

管理者１名（サービス提供責任者・介護従事者兼務）　介護従事者１３名（常勤６名、非常勤７名）事務職員２名（介護従事者兼務）の体制で活動を実施。

	常　　勤	非　常　勤	資　格　等
管理者	１名（サービス提供責任者兼務）		介護福祉士
サービス提供責任者	３名		介護福祉士
介護従事者	２名	６名	介護福祉士・介護職員基礎研修修了者・２級ヘルパー終了者
事務職員	１名（介護従事者兼務）	１名（介護従事者兼務）	２級ヘルパー修了者 介護福祉士

４．在宅事業所との連携

平成２４年度末の介護保険利用者数８２名(実人数)　支援費利用者数９名(実人数)と前年度より増えている。介護保険利用者(要介護)８２名中、ヴォーリズ居宅介護支援事業所からのサービス提供は３９％ヴォーリズ記念病院を主治医とするサービス提供は３８％となっている。空き状況を伝えやすく、ヴォーリズ居宅介護支援事業所からのサービス提供は即サービスに繋がり、連携が活かされている。

５．研修

ヴォーリズ記念病院の職員として院内の研修には全員が参加することができた。
認知症研修等、スキルアップ研修にも経験年数に応じ参加、その他、虐待等の研修にも積極的に参加することができた。

６．評価と今後の課題

訪問従事者１３名中介護福祉士１０名、介護職員基礎研修課程修了者１名、２級ヘルパー修了者２名と昨年に引き続き事業所のキャリアアップを推進できている。
今年度は、障がい者支援費の「特定事業所加算Ⅰ」と「処遇改善加算Ⅰ」への申請をし、職員のモチベーションを高め、収益アップにつなげたい。

２０１２年度（平成２４年度）報告　　居宅介護支援事業所

１．目標：

①　基本理念に基づき、利用者の在宅における生活の質の向上を目指し、ケアプラン作成に取り組む

②「ヴォーリズ医療・保健・福祉の里」の連携を強化し、制度改正に基づいた適正な介護サービスを提供する

③　職員一人ひとりの能力を高め、利用者数を確保し事業運営の安定を図る

２．今年度のトピックス：

①　新規利用者 54 名を受け入れることができた。その内訳として在宅 24 名、ヴォーリズ関連施設 20 名、他施設、病院 10 名であった。なかでもヴォーリズ回復期リハビり病棟から退院された方は 10 名と、最も多かった。ケアマネージャーの増員が図れず、需要に答えることができない時期もあった。

②　里内での連携について、地域連携課との会議を月一回行うことで、入院中の情報も共有でき、スムーズに在宅サービスにつなげることができた。

③　外部研修への参加を積極的に行い、地域での課題や今後の展望を各自が理解し、業務への反映ができた。

３．実績：

月別利用者数（給付実績）

	４月	５月	６月	７月	８月	９月	10 月	11 月	12 月	１月	２月	３月
利用者数	142	145	147	148	149	147	146	152	149	145	150	145

職員構成

管理者（主任介護支援専門員）１名、介護支援専門員 3 名、事務職員 2 名（在宅部門内兼務）

４．教育：

研修日	参加者	研修内容
7 月 6 日	中村	平成 24 年度介護報酬改定
7 月 31 日、8 月 1 日	中村	主任介護支援専門員フォローアップ研修
8 月 8 日、13 日、14 日、20 日	中村 田井中 川原﨑	介護支援専門員現任研修
8 月 22 日	西川	地域包括ケア推進に向けて
10 月 4 日､5 日	全員	介護保険推進全国サミット
10 月 12 日	中村 西川 川原﨑	地域包括システムの構築における介護支援専門員の役割

10 月 20 日	川原﨑	認知症の早期発見システム
10 月 25 日	全員	在宅医療を考える講演会
10 月 23 日 11 月 29 日	西川	介護支援専門員実務従事者基礎過程研修
2 月 8 日	中村	平成 24 年度介護サービス管理者、人権研修
2 月 16 日	西川	すこやかまちづくりフォーラム
2 月 2 1 日	川原﨑 西川 中村	三方よし事例発表
2 月 24 日	西川	在宅看取り市民公開講座
2 月 25 日	川原﨑 西川	在宅医療連携拠点事業、試行事業結果報告会
3 月 4 日	川原﨑 田井中	地域包括ケアと関係職種の連携

５．課題：

在宅復帰を推進する社会になってきており、ますます高齢者が増えるなか、私たちの役割はより専門性を要求される。ケアプラン次第で生活の質を左右されてしまうのではないかと、自己に問いかけながら、重要さを認識している。介護支援専門員のあり方に対して議論が続けられており、研修制度の改正や医療連携の重要性等、今まで以上に業務の中での割合が大きくなると予測される。しかし、基本となるのは、常に利用者の立場に立ち、家族の気持ちを思い支援をしていくことであり、そのことを忘れることなく支援の幅を広げていきたい。職員数も増やし、「家で過ごす」ことを望まれる人たちの役に立てるよう努力を続けたい。

平成24年度介護予防拠点事業実績
公益財団法人近江兄弟社　介護予防支援センターいきいきサロンヴォーリズ
（アンドリュース記念館）

○介護予防教室

	内容・テーマ	講師等	参加人数
5月	認知症の予防と対処法	訪問看護ｽﾃｰｼｮﾝおうみ 所長　青野　章　氏	27名
7月	折り紙を楽しもう PARTⅢ	ｳﾞｫｰﾘｽﾞ老健ｾﾝﾀｰ 施設長　鈴木　輝康氏	22名
9月	最新の福祉用具のご紹介 体験ｺｰﾅｰ・販売・相談	ヴォーリズ記念病院 理学療法士　酒井　英志氏	15名
10月	正しい薬の使い方 毎日のお食事について	ｳﾞｫｰﾘｽﾞ記念病院 薬局長　古武まゆみ氏 管理栄養士　田中愛子氏	13名
12月	折り紙を楽しもう PARTⅣ	ｳﾞｫｰﾘｽﾞ老健ｾﾝﾀｰ 施設長　鈴木　輝康氏	11名
2月	身体の仕組みと 介助方法について	ヴォーリズ記念病院 理学療法士　酒井　英志氏	12名
合計			100名

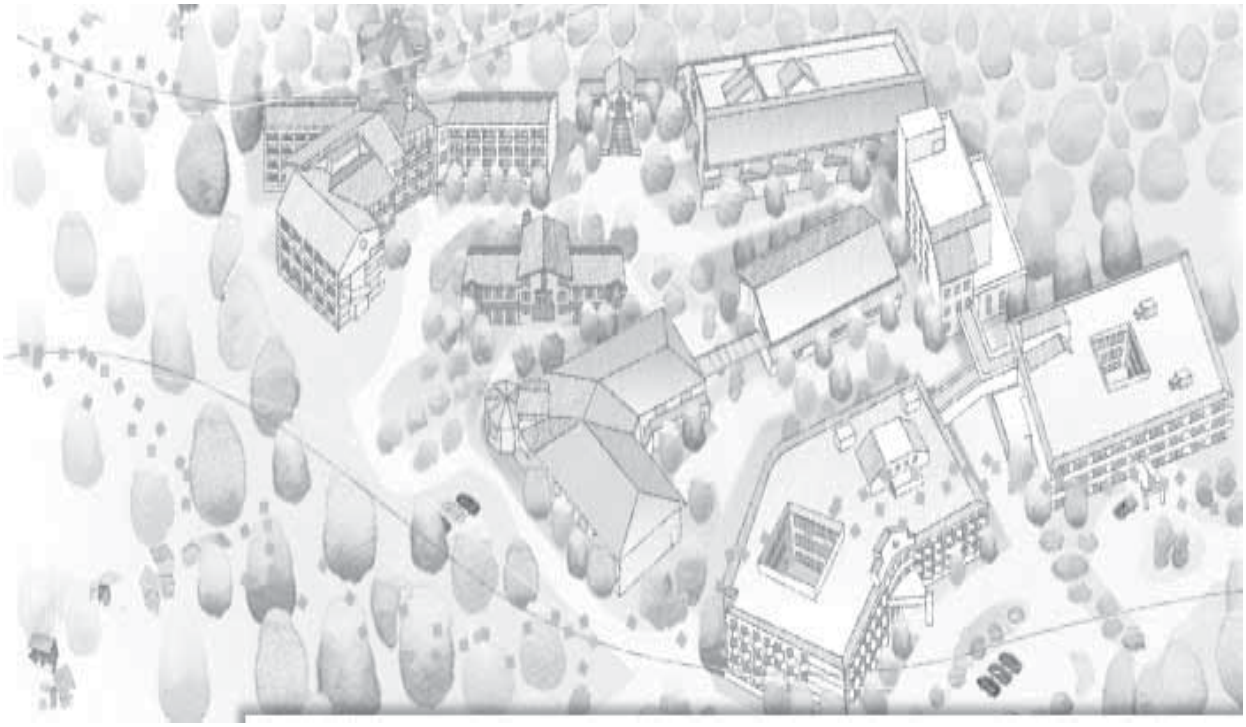
○歌声サロン

	参加人数
4月	27名
5月	21名
6月	16名
7月	17名
9月	40名
10月	27名
11月	28名
12月	24名
2月	43名
3月	32名
合計	275名

○ゴムバンド教室(毎週月曜日)

	回数	参加人数
4月	4回	38名
5月	4回	41名
6月	4回	32名
7月	4回	36名
9月	3回	27名
10月	4回	43名
11月	4回	32名
12月	3回	21名
1月	2回	16名
2月	3回	24名
3月	4回	34名
合計	39回	344名

委員会　報告



2012年度報告（平成24年度）　業務連絡・業務改善　委員会

人員構成			
委員長	周防正史	副委員長	澤谷　久枝
委員構成	医師（２名）看護師（７名）医事課（１名）総務（１名）在宅部（１名）薬局（１名） 健診室（１名）検査科（１名）放射線科（１名）地域連携課（１名）診療情報室（１名） 庶務課（１名）礼拝堂（１名）経営企画室（２名）		
活動内容 （成果）	業務連絡 ・各部署、委員会からの連絡事項、行事などの周知と確認。 ・行事、委員会等の調整及び具体的実施の確認。 ・節電、節水など省エネに対する取り組みと周知。 ・新ホームページの立ち上げと改定への取り組み。 ・東近江医療圏　地域医療再生計画に関する計画と取り組み。 業務改善 ・ファクシミリを使用する場合の各部署のマニュアルの見直しと周知。 ・施設周囲の環境整備の実施と手順の作成。 ・出勤簿の記入方法の統一。 ・電子カルテに関わる紙媒体類の保存方法と種類の検討。 ・“入院案内“の見直し、作成。 ・職員の接遇改善（来院者への対応、職場内の私語、たばこ臭など）への取り組み。 ・退院アンケート・“みなさまの声”に対する改善、回答の実行。		
課　題	・決定事項の周知と継続。 ・改善へ向けたＰＤＣＡサイクルの徹底 ・退院アンケート内容の検討。（患者満足度調査と改善） 　医療の質向上、環境、設備、職員接遇の向上に繋げる		

2012年度報告（平成24年度）　給与・規約プロジェクト　委員会

人員構成			
委員長	澤谷　久枝（事務長）	副委員長	
委員構成	事務部（２名）・診療技術部長（1名）・看護部長（１名）・在宅部長（1名） 職員会：3名（会長・副会長2名） 　医師（1名）・総務（２名）・看護師（2名）・看護助手（1名）・居宅（1名） ヘルパーステーション（1名）・企画（2名）		
活動内容 （成果）	・給与、規約委員会から「給与・規約プロジェクト委員会」と委員メンバーを拡大しての委員会とした。 ① 新人事制度に関する継続的活動 ・給与規定の見直し ・夏季、冬季の賞与について 非常勤職員への対応 ・基本給、暫定調整給の在り方。新人事制度との連動について検討。 ② 規約見直しの提案、整備。 就業規則（第3章　第　26章）の見直し終了。 ③ 今年度の厚生旅行の在り方について。 ④ 新しい退職金制度の構築に向けての準備。		
課　題	・就業規則見直しと完成。 ・平成26年1月目途に退職金制度、マッチング拠出制度の検討。 ・人事制度の完成度を上げる。 各職種別のステップアップシートの追加、修正。未作成部署の作成。 公平性、納得性を得るための評価者、非評価者への教育。 個人目標の立て方、評価者の負担軽減を含め、仕組みの再検討。 ・基本給、暫定調整給の在り方の決定		

2012年度報告（平成24年度）　　自衛消防対隊			
人員構成			
委員長	周防正史（自衛消防隊隊長）	副委員長	櫻井卓哉（防火管理者）
委員構成	隊長（１名）防火管理者（１名）副防火管理者（１名）事務部（２名）看護師（２名） 事務長（１名）里統括防火管理者（１名）		
活動内容 （成果）	・避難・救出・消化器取扱い訓練　２回開催（Ｈ２４／１２月・Ｈ２５／３） 八幡消防署員からの講評、指導を受ける、 ・初期消火競技会への参加・・・・屋内消火栓操法・消火器操法でダブル準優勝する ・消防計画書の改定 ・自衛消防隊組織表・非常連絡網の見直しと作成 ・各部署火元責任者の確認と一覧の作成 ・近江八幡消防署立ち入り検査、指摘事項の改善		
課　題	・防災マニュアルの見直し。ことに大規模災害を視野に入れた内容で検討する ・避難用具等の整備 ・高齢者の入院が多い中、夜間・休日の応援体制の周知 ・防災、各班（庶務・防災・救護）の役割の徹底と教育		

2012年度報告（平成24年度）　　安全衛生　　委員会			
人員構成			
委員長	古武まゆみ	副委員長	岡田幸子
委員構成	安全衛生管理者（2名）、産業医（1名）、看護部長、病棟看護師長（1名）、外来師長 総務課（1名）、健診室長、職員会会長		
活動内容 （成果）	・ 職員健診項目にHbA1Cを追加し血糖値の推移を把握する事とした。 ・ 入社健診のツベルクリン反応をクォンティフェロン検査に変更し、BCG効果を受けにくくした。 ・ 入社健診の色覚検査に本人の了解を得る事とした。 ・ 院内巡視の実施を行い、職場衛生管理に努めた。 ・ 職員健診の実施（夜勤者、放射線に係わる職員は年2回実施） ・ 院内感染防止のため、インフルエンザワクチン接種を実施した。 ・ 風疹が全国的に流行っているため、職員の風疹抗体測定を実施した。 （問診にて感染既往、ワクチン接種すみは除く） 抗体価低い（8未満）に風疹ワクチン接種を勧め、実施した。 ・ 職員健診の問診に「心の健康」チェック項目を追加した。 問診表より医師の診察が必要な職員を産業医面談に繋げた。 ・ 感染防止、針刺し防止のためポスターを作成し院内に掲示した。		
課　題	・ 来年度は、職員の「心の健康」メンタルヘルスケアに講演会の実施、及び 気軽に相談できる体制を構築する。		

2012年度報告（平成24年度）　栄養管理　委員会

人員構成			
委員長	田中　愛子	副委員長	久村　良美
委員構成	医師（1名）管理栄養士（1名）調理師（1名）看護師（2名）言語聴覚士（1名） 介護福祉士（3名）医事課（1名）		
活動内容 （成果）	・　行事食について（評価・見直し） ・　嚥下食の改善 ・　適切な経腸栄養剤の選択・使用方法について検討 ・　朝食時の配膳内容の変更による患者サービス（ケア）向上 ・　栄養管理マニュアルの作成・改定 ・　システムトラブルの対応策検討 ・　停電時や災害時の対応策検討		
課　題	・　システムトラブルの解消 ・　医師に対する食事療法への理解を得る ・　新たな嚥下食の提案 ・ＮＳＴ活動への更なる理解と協力を求める		

2012年度報告（平成24年度）　　広　報　　委員会			
人員構成			
委員長	藪　秀実	副委員長	
委員構成	企画（１名）総務（１名）礼拝堂（１名）健診室（１名）看護助手（１名） 介護福祉士（１名）在宅（１名）リハビリＯＴ（１名）庶務（１名）		
活動内容 （成果）	・ホームページの充実 ホームページ小委員会の発足。業者との交渉。 既存のホームページから新デザインを決定する。 ホームページ内容の検討。 各部署からの原稿の収集と打ち合わせ。 ・毎月の病院広報誌“ヴォーリズだより”の継続発刊 原稿依頼・編集・校正・発刊		
課　題	・ホームページ管理体制の確立 情報発信への仕組み作り 担当と役割の明文化 ・広報誌の充実 ニーズに沿った情報の発信		

2012年度報告（平成24年度）　　接　遇　　委員会

人員構成			
委員長	河瀬　ゆかり	副委員長	
委員構成	医師（１名）看護師（３名）　介護福祉士（1名）事務（1名）老健センター（1名） 給食（1名）看護助手（１名）		
活動内容 （成果）	・職員の接遇に関する、質向上に向けての取り組み。 研修会の実施 ①　新人接遇研修 4月2日　１３：３０～１６：３０ ②　“ヴォーリズ医療・保健・福祉の里”全体の研修 9月6日・12日・28日・29日　１６：００～１８：００ 4回実施、不参加者へはレポート提出とした。 ・各職場での接遇の質の向上 『心のこもった挨拶で、笑顔あふれるヴォーリズの里』をテーマで実行する。 各部署に「スマイルリーダー」を設置し活動をしてもらう。　毎月、各部署のリーダーから報告と改善案を提出してもらう。 ・毎月の“接遇標語”の意識づけ 各部署で毎朝、朝礼にて復唱する。		
課　題	・接遇研修の組み立て テーマ・講師・時期の検討 ・スマイルリーダーの活用 各部署での意識の向上・職場内の雰囲気作り ・勉強会 接遇委員会のメンバーの勉強会を行い、各部署のリーダーとして活動してもらえるようにする。		

2012年度報告（平成24年度）　　臨床検査適正化　　委員会			
人員構成			
委員長	鯰江　賢二	副委員長	
委員構成	医師（1名）、薬剤師（1名）、看護師（1名）、臨床検査技師（2名）医事課（1名）		
活動内容 （成果）	・　精度管理 外部精度管理：平成24年度日本医師会精度管理事業の結果報告。 315満点中、314点の高評価を得る。 滋賀県医師会・滋賀県臨床検査技師会精度管理事業の結果は、 生化学部門・輸血部門・血清部門・一般部門・血液部門すべて A評価です。 内部精度管理：検査センターメディックから問題なしの評価。 ・　その他連絡事項と業務改善について 院内用血糖測定器のデモを外来処置室、各病棟にて実施。 電子カルテに関する運用で、心電図の電子カルテへの取り込みの提案		
課　題	・来年度に向けて心電図を電子カルテに取り込むことについて。 ・委員より「簡易血糖測定器で視力の悪い方に対応したものを検討してほしい。血液を付ける時、ずれて又、新しいセンサーを付ける必要がある。余分なセンサーや針が必要になる」との意見を受けた。それについて、来年度は新しい複数の機種をデモして、より使いやすい物を考えたい。		

2012年度報告（平成24年度）　医療安全管理　委員会

人員構成			
委員長	周防　正史	副委員長	澤谷　久枝
委員構成	医師　院長（1名）・事務長（1名）・看護部長（1名）・診療技術部長（1名） ＭＥサービス担当（1名）・リスクマネージメント部会長・（1名）・医療安全推進者（1名）		
活動内容 （成果）	・委員会規定・医療安全管理指針のマニュアル見直し。 ・インシデント、アクシデント事例集積と分析および再発防止対策 ・医療安全に関する職員教育。研修会開催 　新採用対象・全職員対象2回開催 ・医療安全に関わる情報の提供と周知 ・医療安全管理に関する電子カルテの運用、周知 ・医療安全管理者の教育と役割。具体的な実践の明確化		
課　題	・医療安全確保に向けた院内ラウンドチェック表の完成と活用 ・リスクマネージャーの指導力アップと継続した教育 ・危険予知トレーニング（ＫＹＴ）を重ね、根本原因分析（ＲＣＡ）を訓練する。 ・職員の意識向上に向けた研修、教育の実施		

2012年度報告（平成24年度）　リスクマネージメント　委員会

人員構成			
委員長	前田　小百合	副委員長	
委員構成	医局（１名）薬局（１名）栄養、給食科（１名）看護師（５名）放射線科（１名） 医事課（１名）地域連携課（１名）検査科（１名）リハビリテーション科（２名） 庶務課（１名）		
活動内容 （成果）	・毎月のインシデント報告と集計。 H23年度のインシデント集計、報告会開催。 ・重要事例の検討と対策。 ・医療安全委員会との連携。 ・リスクマネージメント研修会の開催。		
課　題	・インシデントレポートの提出の周知。 レポートの多い部署とゼロ件の部署があり、インシデントレポートに対する温度差を解消する。 ・リスクマネージャに対する教育。 カンファレンスの持ち方、内容、分析の仕方、職員に対する指導などレベルアップが必要 ・各部署の特徴に合わせた事象内容とレベル分類の作成。 ・委員のメンバー構成について。 委員は２年毎に交代となっているが、係長クラスで統一のメンバーとすることの是非。		

2012年度報告（平成24年度）　教　育　委員会

人員構成			
委員長	市來　史暢	副委員長	
委員構成	医局（１名）、看護部（２名）、栄養、給食科（１名）、事務部（２名）、在宅部門（１名）		
活動内容 （成果）	・基本理念研修会（全職員対象） ４月１８日、２４日、５月２日、６月５日の４日間で実施。 ２６４名が参加。 ・他部署体験　（新入職、中途採用者対象） １１月１２日、１３日、１４日、１６日の４日間で実施。 ２２名が参加。 ・院内合同発表会（基本理念研修） ２月１日～９日の期間で開催。 ２２部署が参加。『心と体に対し、調和のとれた医療・看護を目指す。』をテーマに、ポスター示説発表を行った。　２１３名より、アンケートの提出があった。 発表会終了後、ポスターおよびアンケートをまとめた資料を院内に配布した。 ・院外研修（off-JT）報告会 ３月２６日に実施。 各部門の代表に、院外研修内容についてプレゼンテーションを行ってもらった。 ３０名が参加。　報告会終了後、プレゼン資料を院内に配布した。 連続した取り組みとして２０１３年度から、off-JT報告書を毎月発行している。 ・この他、各種委員会の全体研修時に、短時間の基本理念研修を実施（経営企画室等に依頼）。		
課　題	・経営企画室との連携がうまく図れなかった点。 ・グループワークの研修への取り入れ方。 ・院内合同発表会のありかたの検討。 ・職員の研修への評価を調査し、効果的な職員教育を行うこと。		

2012年度報告（平成24年度）　全人的ケア推進　委員会

人員構成			
委員長	谷川　弘子	副委員長	安部　勉
委員構成	医師（２名）看護師（３名）管理栄養士（１名）薬剤師（１名）ケアワーカー（２名） 放射線技師（１名）チャプレン（１名）		
活動内容 （成果）	・月１回の定例委員会。本年度のテーマ「人として寄り添うケア」 ・事例検討会 年５回実施。１０部署の検討事例を行った。いろんな視点（コメディカルが集結）で検討が出来、勉強になった。また、看護以外の人の関わりや観点を知ることが出来た。 ・院内研修（映画上映　“いのちがいちばん輝く日”） 複数ヶ所で上映され、多くのスタッフが観賞出来た。 ・がんセミナー　テーマ「がんから学ぶこと」 放射線科のDr、ホスピスのDr、訪問看護と在宅療養の内容で行い、３回のシリーズでいろんな観点からの研修で良かったとの評価を得た。 ・追悼会（5/19　：8組17名、10/20：11組17名参加） ・ターミナルケア講演会　（映画上映と細井Drと映画監督、緩和ケア認定看護師の対談）		
課　題	・事例検討会。 もう少し、多くの人が参加できるように各部署の委員に声掛けしてもらう。また、各所属長にはぜひ出席して頂くように働きかけが必要。事例検討の用紙を作成していく。 ・院内研修（映画上映）について 研修として効果が上がったのか、どう業務に反映されているのかわからない。 病棟同士で支え合うような全人的ケアをもう一度見直すような研修が必要。 ・がんセミナー 昨年と今年度は、グループワークは行わなかった。マンネリ研修にならないように工夫していく必要がある。もう少し準備を早めに行うことで、４月にずれ込まないようにする。 ・追悼会 関わったスタッフの参加が少ないため、早めに情報提供を各病棟に行って行く必要がある ・ターミナルケア講演会 健康フェスティバルの案があり。 病院としての全人的ケアで関わる視点の充実を図り、ケアとは何かを追求していくために、委員会活動をさらに充実したものとできるような取り組みをしていく。		

2012年度報告（平成24年度）　　褥創対策　　委員会			
人員構成			
委員長	平野　節（医師）	副委員長	
委員構成	医師（１名）看護師（４名）管理栄養士（１名）薬剤師（１名）		
活動内容（成果）	・月１回の定例委員会。 ・適宜褥創回診を実施。 ・褥創診療計画書を集計して医事課に提供。		
課　題	・褥創はほとんどが持ち込み例であったが、院内発生も見られる。 高リスクだからこそ褥創が出来てしまうのだが、予防について方法がまちまちなのが現状。記録も十分とはいえない。 開放湿潤療法（いわゆるラップ療法）については十分浸透したと思われるが、踵の除圧／減圧法をはじめ、予防のレベルアップも図りたい。		

2012年度報告（平成24年度）　　ボランティア　　委員会			
人員構成			
委員長	安部　勉	副委員長	神　千草子
委員構成	礼拝堂（牧師）・看護師（４名）・看護助手（２名）・在宅部（１名）・事務（１名） 庶務（１名）老健センター（２名）		
活動内容 （成果）	・第３３回期、３４回期ボランティア募集 募集への作業確認と役割分担 オリエンテーションの実施 ・ボランティアの健康管理と活動支援 健診、インフルエンザ予防接種の案内と実施 ボランティア間、病院、老健との交流会 活動内容、活動時間などの管理 ・活動の支援と協力体制		
課　題	・ボランティアの募集 ボランティア募集が低調に終わり、新規参加者が少なかった。 新たに募集方法を検討し、次年度は募集を増やしたい。 ボランティアの集い、ニュース発行などボランティア主体で活動する。 ・職員の意識向上 ボランティア活動をされる方へ職員の声かけなど、ボランティア活動への関心を持ってもらう事が急務。やりがい、充実感などボランティア活動に参加される方の思いを理解し実践するよう周知を図る。		

2012年度報告（平成24年度）　院内感染防止対策　委員会

人員構成			
委員長	周防　正史（医師）	副委員長	平野　節（医師）
委員構成	院内感染防止対策委員　：院長、感染管理者、（医師）、看護部長、事務長、薬局長 検査技士長 院内感染防止対策チーム：各病棟（４名）・外来看護師、リハビリ科、栄養科、地域連携課・ 医事課、庶務課代表各１名		
活動内容 （成果）	・ 感染防止対策加算2を取得した。 ・ 滋賀医大付属病院、東近江総合医療センターと院内感染防止カンファレンスに4回参加し、当院の状況報告と意見交換を行った。 ・ ICTチームの院内ラウンドを開始し委員会で報告し、改善を求めた、 ・ 滋賀県感染症情報センター週報を毎週院内に配信し、情報を提供した。 ・ 委員会では「感染レポート」報告により耐性菌発生状況の報告。 ・ 院内抗生物質使用量の報告 ・ 病棟別アルコール手指消毒薬の消費数の報告 ・ 院内感染防止研修会の開催「個人防護具（PPE）の正しい使い方」 ・ 自動噴霧式のアルコール手指消毒剤を必要部署に配置し消費量を委員会で報告すると共に適正な配置箇所を検討した。 ・ 職員の風疹抗体の測定、及び抗体価８未満の職員には風疹・麻疹風疹ワクチン接種の推奨を行った（現在集計中） ・ インフルエンザ、ノロウィルス感染者の発生があれば濃厚接触者の特定を行い感染拡大防止に努めた。 ・ ノロウィルス感染拡大防止用に汚染除去キット、汚物流し用蓋を作成し必要部署に配置した。 ・ HIV協力病院であり、抗HIV薬予防内服マニュアルを作成し、他医療機関に抗HIV薬を譲渡する手順を周知した。		
課　題	・ インフルエンザ、疥癬、ノロウィルス、クロストリジウム・ディフィシル感染が発生したが、２次感染の発生は避けられた。 ・ 院内感染防止研修会、講演会の参加率を100%とする事が課題である。		

2012年度報告（平成24年度）　　診療情報管理　　委員会			
人員構成			
委員長	周防　正史（医師）	副委員長	加賀爪　優子
委員構成	医局（２名）事務部（１名）看護部（５名）診療情報管理士（１名）技術部（薬局）（１名）医事課（１名）		
活動内容（成果）	・ 退院時要約（サマリー）の１週間以内完成の向上 →　８０％は１週間以内までには完成されている。 退院後は３～４日には主治医に通知を行った。 ・ 電子カルテ導入にあたり、紙媒体ファイリング方法の取り決め →　各病棟での聞き取りを行い診療情報管理室での紙媒体保管の取り決めを行った		
課　題	・院内カルテ監査について 平成２４年度は電子カルテの院内監査を診療情報管理室で日々の診療録チェック業務をカルテ監査とするとなっていたが、１名退職に伴い完全に監査が出来なかった。 ・電子カルテ導入後のテンプレート、文書棚の管理、作成の報告が委員会で出来なかった。		

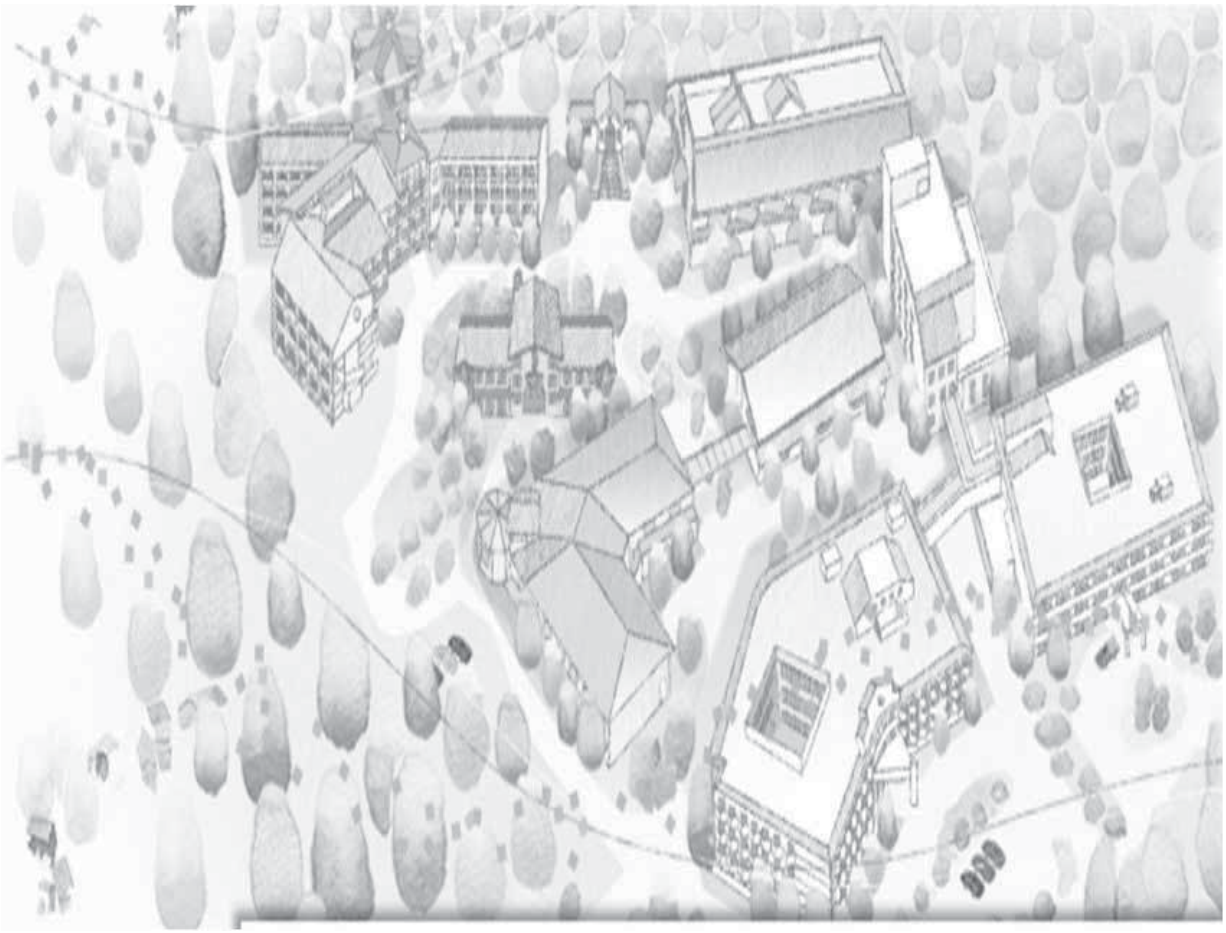
2012年度報告（平成24年度）　病院機能評価　委員会			
人員構成			
委員長	岡田幸子	副委員長	櫻井卓哉
委員構成	医師（1名）看護師（6名）診療技術部(4名)　事務部(4名)		
活動内容（成果）	・次年度新バージョン受審に向けた情報収集（機構主催説明会への参加5名。 ・新バージョン病院機能評価機能種別版評価項目　解説集を配布、各分野の担当を決め自己評価の実施。 ・自己評価後　各領域でのC項目の改善に向けたすり合わせを行った。 ・各部署、委員会のマニュアル整備の確認。 ・病院全体で取り組むため、受審の目的の周知。		
課　題	・H25年9月19・20日受審日決定 タイムスケジュールを立て取り組む。 ・2回目の自己評価を行い、改善項目の精査をし取り組む。 ・各部署単位での取り組みと共同で取り組む内容を明確とし、すり合わせ作業を進める。 タイムスケジュールを立て取り組む。 ・全職員に目的を周知し、全員で取り組んで行く。		

2012年度報告（平成24年度）　　個人情報保護　　委員会

人員構成			
委員長	澤谷　久枝	副委員長	櫻井　卓哉
委員構成	医師（1名）・看護部（1名）・事務部（1名）医事課（1名）在宅部（1名） 地域連携課（1名）総務（1名）・薬局（1名）・放射線科（1名）情報管理室（1名）		
活動内容 （成果）	・各部署のＰＣ等のセキュリティ強化対策実施 ・Ｆａｘ送信用マニュアル作成 ・個人情報保護に関する研修会 　　7月、8月に3回実施 ・委託業者の誓約書の見直しと管理 ・新規入職者への教育と誓約書の管理		
課　題	・個人情報保護観点からのＳＮＳに関する教育と対策 ・ＵＳＢの使用に関する周知徹底 ・ＩＴ情報管理委員会と個人情報保護委員会との連携の構築 　セキュリティの強化 ・継続した教育と周知 ・個人情報保護規定に関する情報の集約とマニュアルの見直し		

2012年度報告（平成24年度）　クリニカルパス　委員会

人員構成			
委員長	木村　吉宏	副委員長	
委員構成	医師（1名）・看護師（6名）・薬剤師（1名）・栄養士（1名）・理学療法士（1名） MSW（1名）　医事課（1名）		
活動内容 （成果）	・H24.6月よりポリペクパスを使用できるようにした。 ・H24.9月パスが作成できるように委員長以外の作成権限を依頼した。 ・H24.10月にポリペクパスの内容不備を改善した ・現在、使用しているパスを電子カルテに反映させられるよう作成中		
課　題	・ジオンパス・ヘルニアパス・胃ろうパスを今年度使用できるように作成していく。 ・現在、運用中のパスで問題点等を委員会で検討し完成させる。		



公益財団法人近江兄弟社　ヴォーリズ記念病院　　年報

平成 24 年度

発行　　平成２６年２月
発行者　　公益財団法人近江兄弟社　　ヴォーリズ記念病院
　　院長　　周防　正史

〒523-8523　滋賀県近江八幡市　北之庄町 492
TEL（0748）32-5211(代)
FAX（0748）32-2152
URL　http://www.vories.or.jp